

第2期 九戸村地域福祉活動計画

〔令和6年度(2024)～令和10年度(2028)〕



令和6年3月

社会福祉法人九戸村社会福祉協議会

はじめに

村民の皆様、各関係機関の皆様には、日頃より当協議会の活動にご理解、ご支援、ご協力をいただきまして、心より感謝申し上げます。

近年少子高齢化や家庭や地域のつながりの希薄化が進み、また社会的孤立や生活困窮、8050問題など住民が抱える課題は、複雑化多様化しています。また、自然災害の増加、様々な感染症の流行等により、私たちの生活の側面も大きく変化してきています。このような状況のなか、地域で生活するすべての人が安心して生活できる地域づくりが急務となっております。

このような状況を踏まえ、村の第2期地域福祉計画を念頭に、『ともに生き、ともに育み、安心して暮らせる地域社会を目指して』を基本理念に、第2期の地域福祉活動計画（令和6年度～令和10年度）を策定いたしました。

また、この計画を推進するにあたり、4つの基本目標を掲げるとともに行政や関係機関等と連携・協働体制を強化し、さらに社協の役割を強化・再構築し、村民の皆さまと取り組んでまいります。

結びに、この計画を作成するにあたり、貴重なご意見・ご提言をいただきました策定委員の皆さま、アンケート調査にご協力いただきました地域の皆さまに心から感謝申し上げます。



令和6年3月

社会福祉法人九戸村社会福祉協議会

会長 日向和彦

目 次

第1章 地域福祉活動計画の概要

- 1. 計画策定の背景と主旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 計画の位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 3. 計画の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 4. 計画の策定体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

第2章 地域福祉を取り巻く九戸村の現状

- <人口動態等>・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

第3章 計画の基本理念と基本目標

- 1. 基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 1
- 2. 基本目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 1

資料 地域福祉活動計画策定に関するアンケート調査結果・・・・・・・・ 2 1

策定経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 0

社会福祉法人九戸村社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会設置要綱
・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 1

名簿：社会福祉法人九戸村社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員
社会福祉法人九戸村社会福祉協議会役員・・・・・・・・ 4 3

第1章 地域福祉活動計画の概要

1. 計画策定の背景と主旨

全国的に少子高齢化が進む中、地域社会のつながりの希薄化、家族形態の変容など地域社会を取り巻く環境は大きく変化し、住民の抱える福祉ニーズはさらに多様化・複雑化しています。地域では社会的孤立、ひきこもり、8050問題※1、障害者と要介護者で構成される世帯、貧困や格差等様々な地域生活課題が顕在化しており、1つの世帯が抱える課題が複合化・複雑化し、既存の支援制度では対応することが難しいケースの増加が懸念されます。

こうした課題に対応するために、行政はもとより、地域住民や地域の専門機関、事業者など地域に係る全ての人々が連携して、支援が必要な方を支える仕組みづくりが重要となっております。

九戸村社会福祉協議会では、九戸村の地域福祉を推進していくため、行政等の関係機関、民生委員児童委員、ボランティア団体、福祉事業者、各福祉団体、町内会等の参加・協力を得るとともに、これら関係者等と連携しながら福祉活動を展開してまいりました。

これらの実践を踏まえ、「地域福祉活動計画」の策定に取り組み、多様な福祉活動や福祉サービスの推進を図ることが、地域福祉推進の中核的団体としての大きな使命となっております。

全国社会福祉協議会では、福祉関係者が主体的に取り組んでいくための羅針盤として、「全社協 福祉ビジョン 2020※2」を策定し、2040年を見据えつつ、2030年までを取り組み期間とし、取り組みの方向性を提起しました。それは、国で進めている「地域共生社会」の推進と、国際的に進められている「SDGs (持続可能な開発目標)※3」を含み、『共に生きる豊かな地域社会』の実現を目指すというものです。

以上のことから、村民・民間の立場で地域福祉活動をどのように進めていくかを明らかにし、また村で策定している「九戸村地域福祉計画」を受け、行政と村民が役割を分担しながら共に地域福祉活動を展開するため、第1期地域福祉活動計画の振り返りを行ったうえで「第2期九戸村地域福祉活動計画」を策定いたします。

※1 **8050問題** = 80代の高齢の親が50代のひきこもりの子供の生活を支えること

※2 **全社協福祉ビジョン 2020** = 2040年に向け、これからの社会環境の変化を見据え、課題認識を共有しつつ福祉組織・関係者が主体的に取り組んでいくための行動方針

※3 **SDGs** = 誰ひとり取り残されることなく、人類が安定してこの地球で暮らし続けることができるように、世界のさまざまな問題を整理し、解決に向けて具体的な目標を示したものの

SDGsに定められた17の目標



■目標1
地球上のあらゆる形の貧困をなくそう



■目標2
飢えをなくし誰もが栄養のある食糧を手に入れられるようにしよう



■目標3
誰もが健康で幸せな生活を送れるようにしよう



■目標4
誰もが公平に質の良い教育を受けられるようにしよう



■目標5
男女平等を実現し全ての女性の能力を伸ばし可能性を広げよう



■目標6
誰もが安全な水とトイレを利用できるようにしよう



■目標7
全ての人々が安くて安全で現代的なエネルギーを利用できるようにしよう



■目標8
経済成長を進め、誰もが人間らしく生産的な仕事ができるようにしよう



■目標9
新しい技術を開発しみんなに役立つ産業化を進めよう



■目標10
世界中から人や国の不平等をなくそう



■目標11
誰もがずっと安全に暮らさせて災害に強いまちをつくらう



■目標12
生産者も消費者も環境や健康を守り責任ある行動をとろう



■目標13
気候変動から地球を守ろう



■目標14
海の資源を守り大切に使う



■目標15
陸の豊かさを守り砂漠化を防ぎ多様な生物が生きられるようにしよう



■目標16
平和で誰もが受け入れられ、法や制度で守られる社会をつくらう



■目標17
世界中の全ての人々がみんな協力をし合い目標を達成しよう

2. 計画の位置づけ（村が作成する九戸村地域福祉計画との関係性）

「九戸村地域福祉計画」は、社会福祉法第107条に定める市町村地域福祉計画（地域福祉の推進に関する事項を一体的に定める計画）として位置づけられ、地域福祉の推進を図るための理念や仕組みをつくる計画です。

「地域福祉活動計画」は九戸村社会福祉協議会が策定する福祉活動を実行するための行動計画（民間計画）です。九戸村と九戸村社会福祉協議会は、連携・協働※4して地域の課題を把握し、解決していかなければなりません。計画としては別々なものですが、九戸村における地域福祉を推進するという目的は同じです。

※4 協働…住民活動主体を原則とした各種関係機関・団体・住民等の役割分担により計画的に活動を進める場合に用いる。

3. 計画の期間

この計画は、令和6年度を初年度とし、令和10年度を最終年度とする5年間の計画とし、関係法令・制度の改正や社会情勢の変化などによる影響をはじめ、地域における新たな問題、ニーズなどが生じた場合は、そうした状況に対応した取り組みができるよう、計画期間内であっても必要に応じ見直しを行っていくものとする。

○ 計画期間

5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
九戸村地域福祉計画					計画の見直し	
九戸村地域福祉活動計画						見直し

4. 計画の策定体制

(1) 九戸村地域福祉活動計画策定委員会

本計画を策定するにあたり、住民参加により計画を策定する場として、地域の代表者、福祉関係者、民生委員児童委員、行政機関関係者などの委員からなる「九戸村地域福祉活動計画策定委員会」を設置し、審議検討を行います。

(2) アンケート調査の実施（令和4年7月～令和5年2月実施）

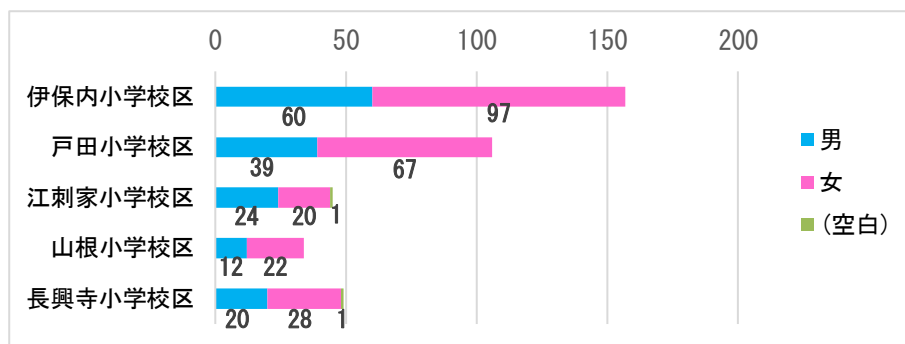
本計画の策定に先立ち、住民の福祉に関する意識や地域活動への参加状況などの

実態を把握するとともに、意見・要望を広くお伺いし、地域福祉活動計画策定の基礎資料とするために、アンケート調査を実施しました。

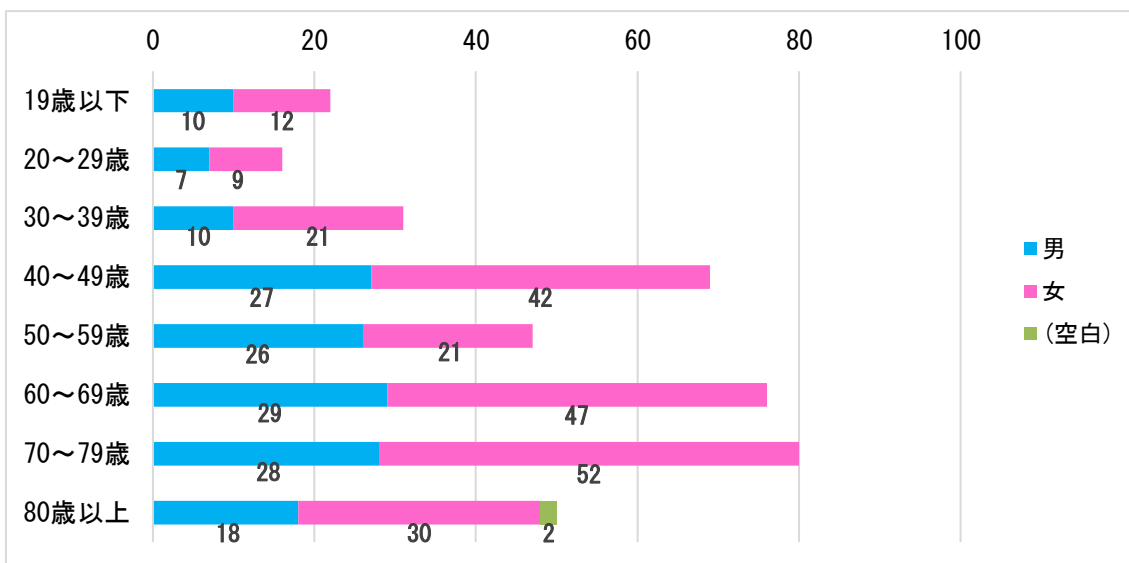
<アンケート協力依頼人数>

- ・アンケート実施総数 421人
- ・アンケート回答数 391人
- ・アンケート回収率 92.9%

<小学校区別>



<年齢・男女別>



第2章 地域福祉を取り巻く九戸村の現状

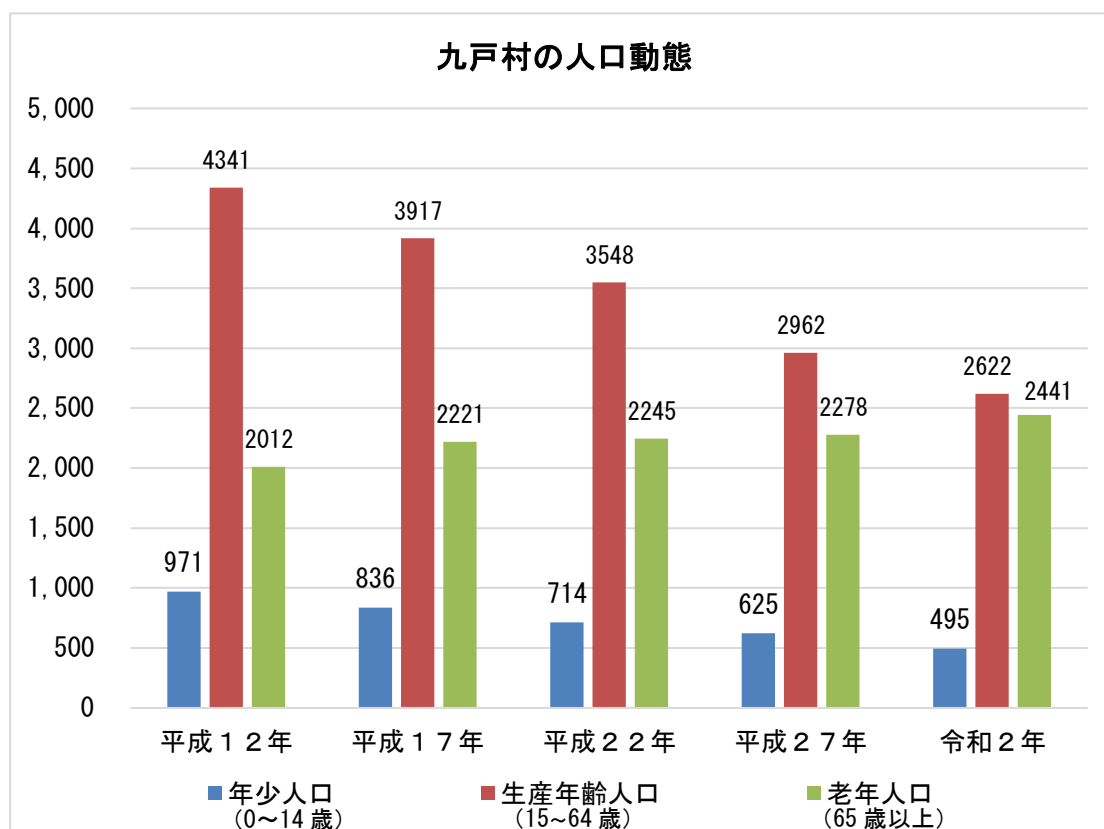
<人口動態等>

1. 人口の推移

九戸村の人口を国勢調査資料からみると、平成12年（2000年）から令和2年（2020年）の20年間に1,281人減で、割合では24.1%減となっております。

また、国勢調査時点の年齢階層別の比率を、平成12年（2000年）と令和2年（2020年）を比較すると、年少人口4.3%減、生産年齢12.2%減、老年人口16.5%増となり、少子高齢化を数字で確認することができます。

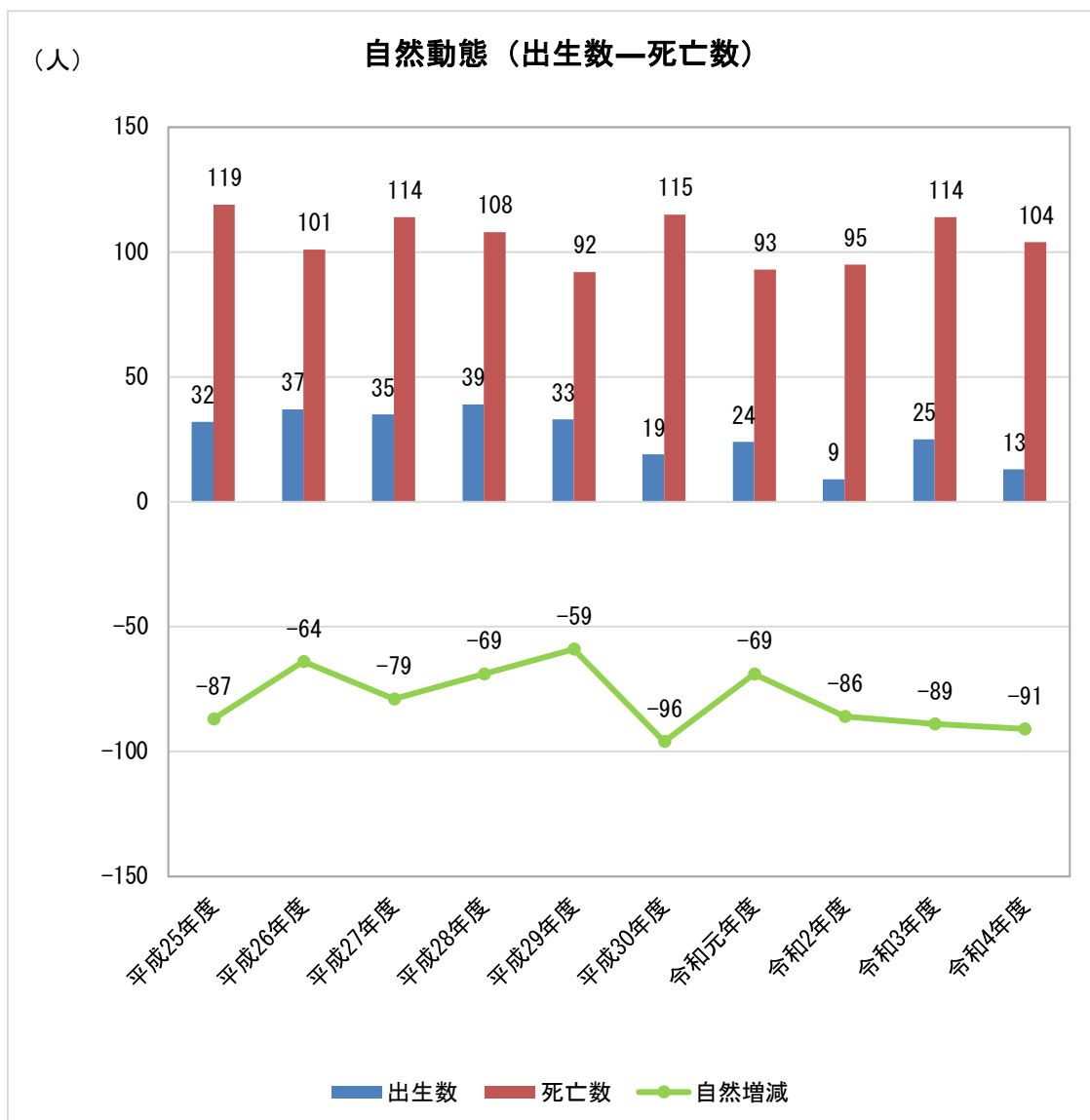
さらに、平成12年（2000年）の総人口に占める65歳以上の割合を示す高齢化率は27.5%、そのうち後期高齢者の占める割合が11.3%、令和5年（2023年）には、高齢化率45.7%、そのうち後期高齢者の占める割合は25.4%で、高齢化率18.2%増、後期高齢者数は14.1%増となっています。



※国勢調査資料より

2. 自然動態

自然動態について、出生数と死亡数の推移をみると、常に死亡数が出生数を大幅に上回っており、過去10年間の自然増減は年平均78.9人減となっております。

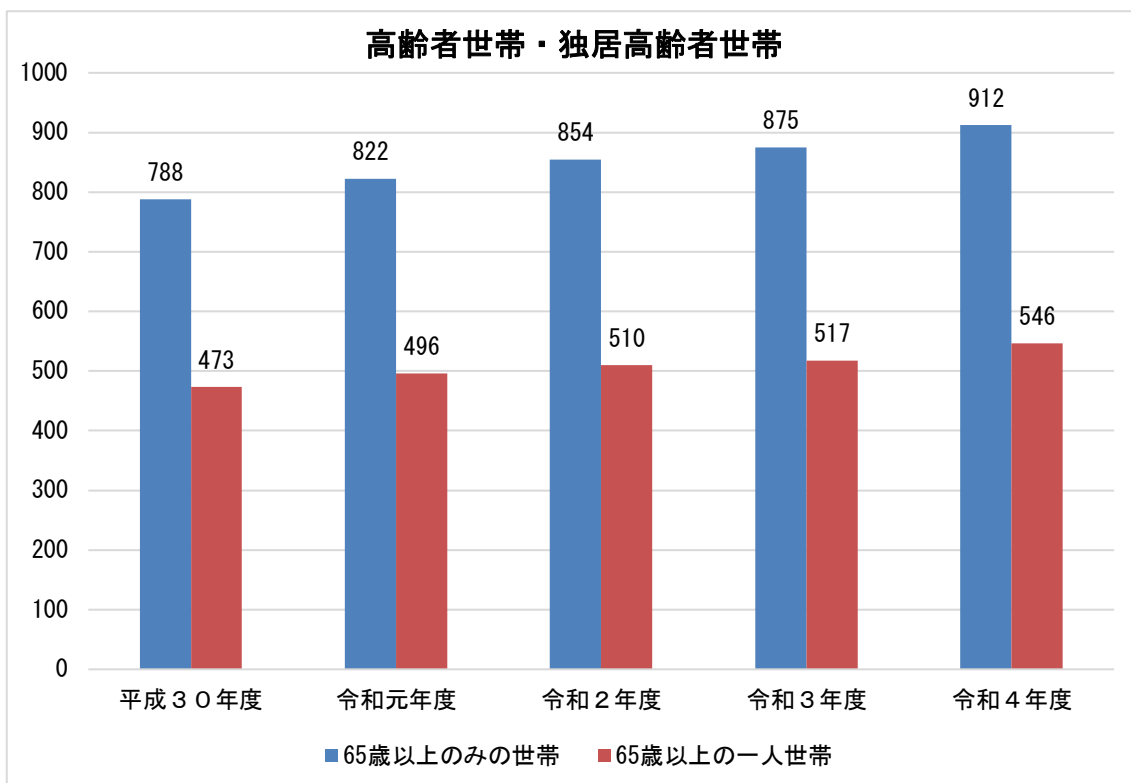


※住民基本台帳より

3. 高齢者世帯・独居高齢者世帯

高齢者のみの世帯（65歳以上）・独居高齢者世帯（65歳以上）の推移をみると、5年間で高齢者のみの世帯は、124世帯増で13.6%増。そのうち独居高齢者世帯は73世帯増で13.4%増となっております。

高齢者のみの世帯、独居高齢者世帯が増加傾向となっている中、高齢者が孤立することがないように地域での見守り活動などを推進していく必要があります。



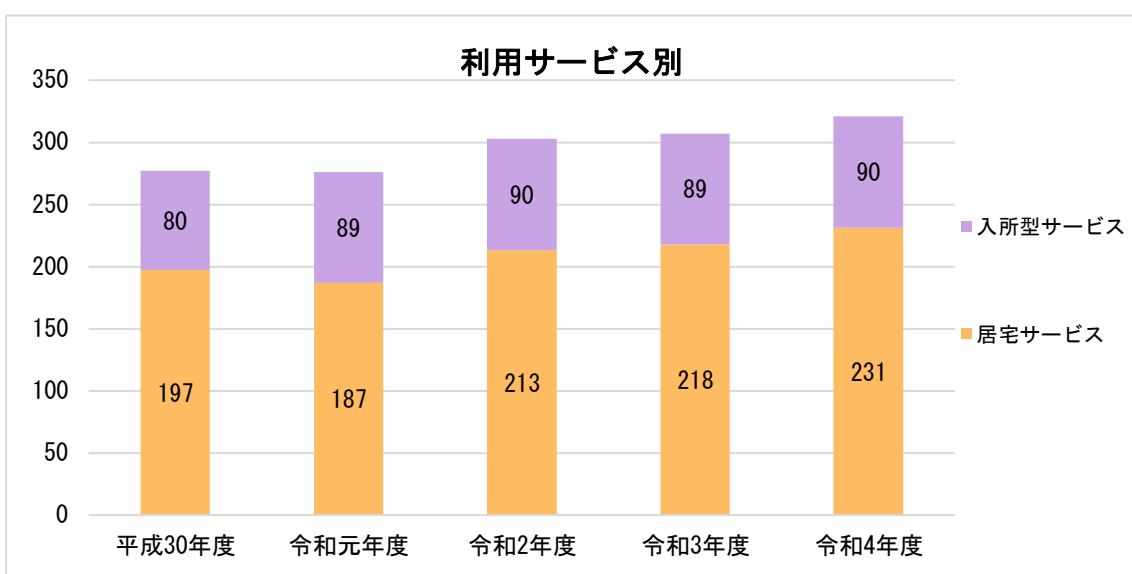
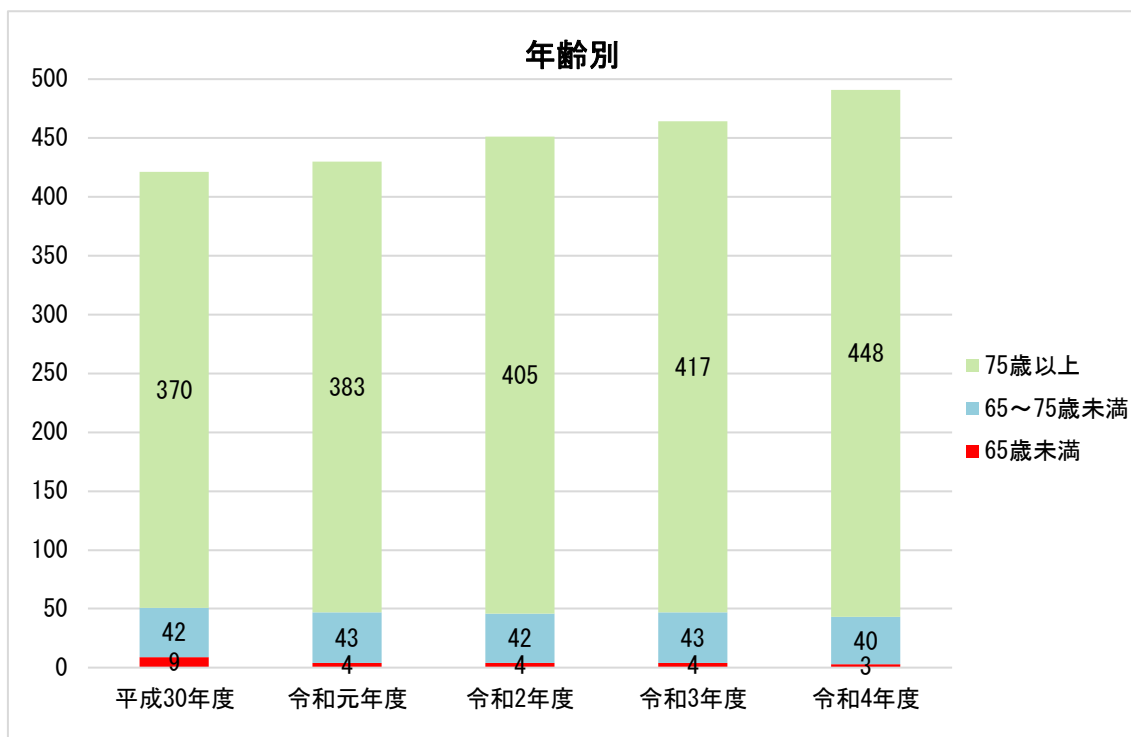
※住民基本台帳より



4. 介護認定者の推移

介護認定者数の平成30年度末～令和4年度末の5年間の推移をみると、76名増となっており、91.8%が75歳以上の後期高齢者となっております。

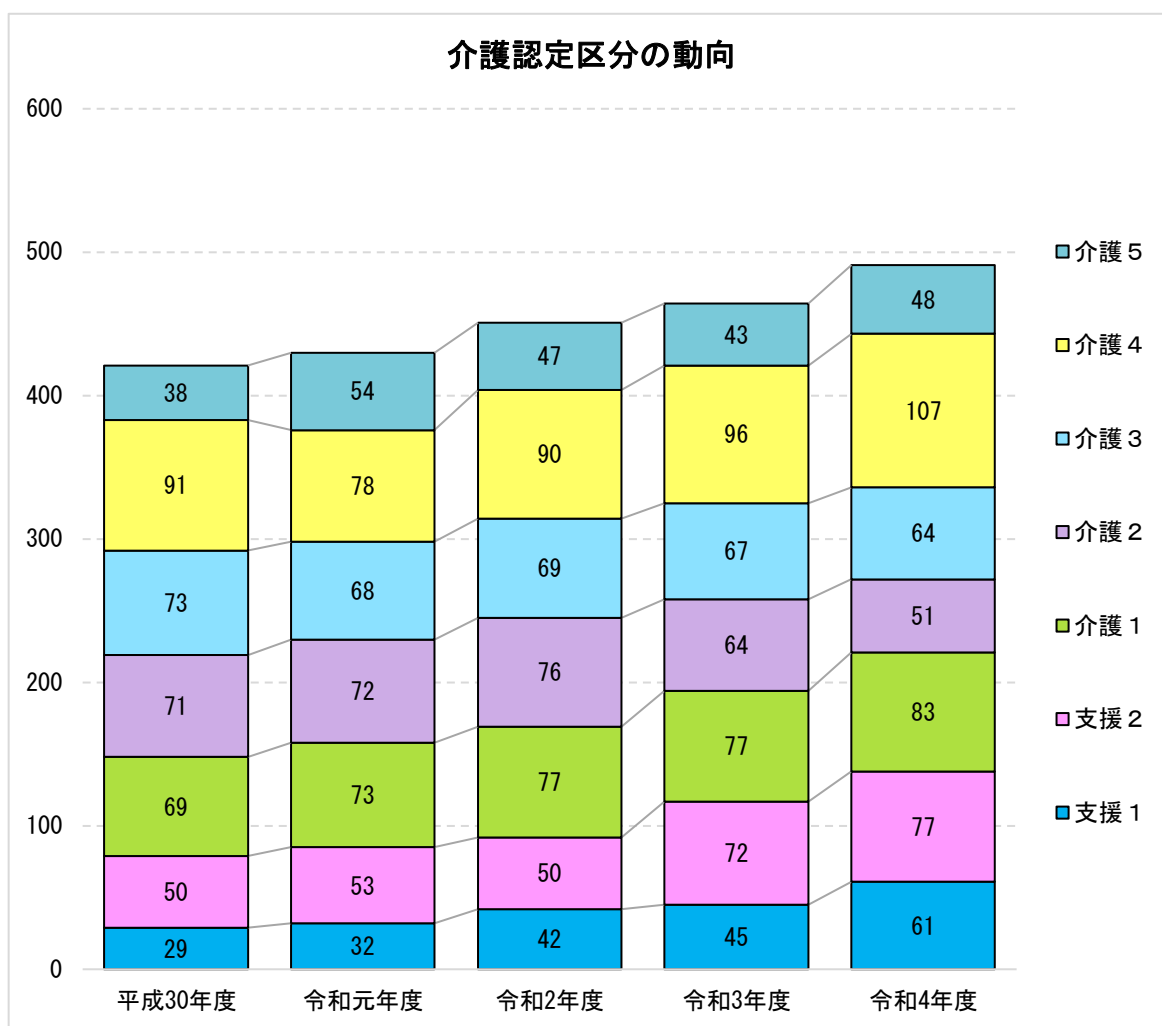
また、サービス利用者は57名増、令和4年度末は77%の方が在宅でのサービスを利用されており、認知症高齢者の増加、家族形態の変化により、支援を必要とする方はますます増加すると予想されます。しかし、支え手不足が懸念されており、地域の助け合いも活かした重度化予防と在宅生活への支援の充実が求められます。



※資料：九戸村保健福祉課調

○介護認定区分の動向

令和4年度の認定者の内、比較的軽度と認定された要支援の方は138名、介護が必要と認定された方は353名で、5年間で合わせて70名増となっています。特に要支援の方の増加が顕著であり、家族形態の変化等により、比較的軽度の段階からサービスの利用を開始される方が増加していると見受けられます。

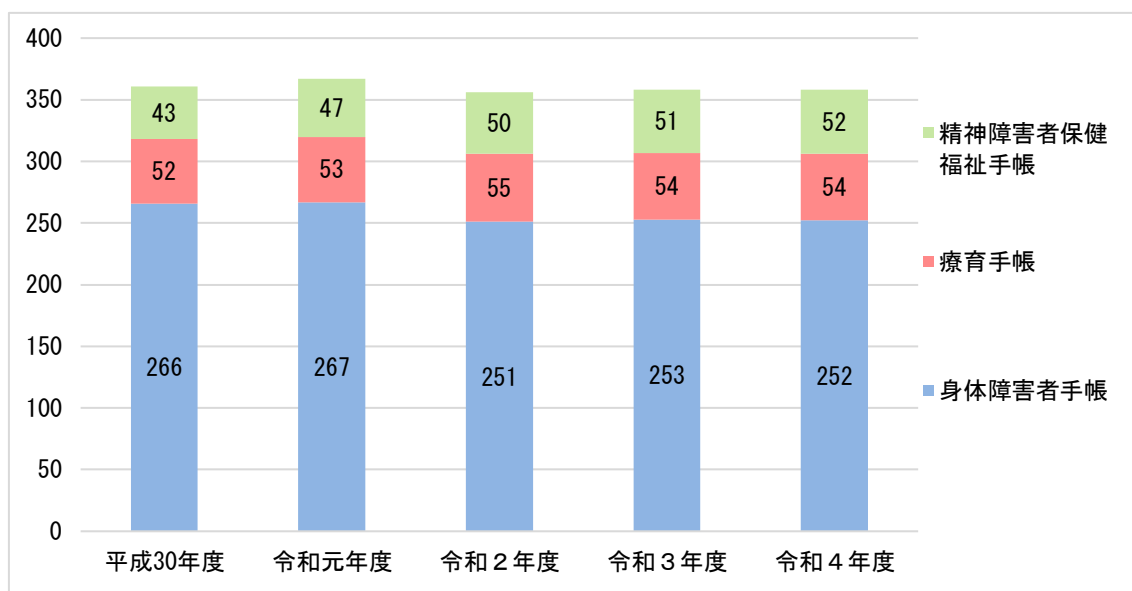


※資料：九戸村保健福祉課調

5. 身体障がい者数の推移

障がい者（手帳保持者）数は、わずかな増減を繰り返しながらほぼ横ばいで推移しており、令和4年度末では358人となっています。

障がい別では、身体障害者手帳所持者は減少傾向、療育手帳保持者はほぼ横ばい傾向、精神障害者保健福祉手帳所持者は増加傾向にあります。

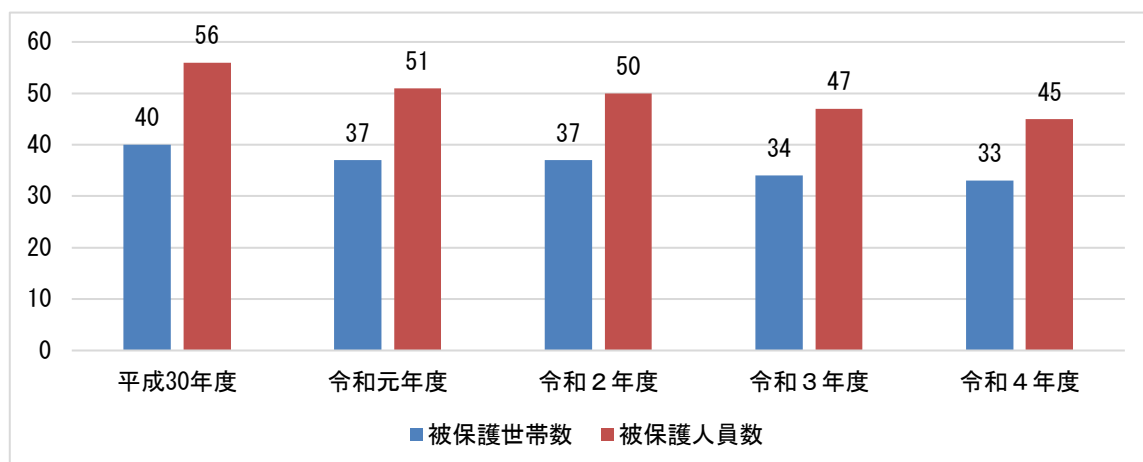


※資料：九戸村保健福祉課調

6. 生活保護の状況

生活保護の状況は、過去5年間では減少傾向にあり、令和4年度末では、被保護世帯が33世帯、被保護人員数が45人となっています。

生活困窮者の相談窓口の周知を図るとともに、生活保護の受給に至る前に生活の自立に向けた生活困窮者自立支援制度のさらなる充実が求められます。



※資料：九戸村保健福祉課調

第3章 計画の基本理念と基本目標

1. 基本理念

『ともに生き、ともに育み、

安心して暮らせる地域社会を目指して』

本会は、村民一人ひとりが手を取り支え合い、子供から高齢者、障がいのある方まで地域で生活するすべての人が、安心して生活ができる地域づくりに取り組み「みんなの手でみんなの支え合いで」、『ともに生き、ともに育み、安心して暮らせる地域社会を目指して』を基本理念に地域福祉活動を推進してまいります。

2. 基本目標

本計画の基本理念を実現するため、行政や関係機関等とのパートナーシップ及び地域における九戸村社会福祉協議会の役割を強化・再構築し、全社協が示した「社協・生活支援活動強化方針」及び九戸村第2期地域福祉計画において、次の4つの目標を掲げ、地域福祉活動を推進してまいります。

基本目標1	一人ひとりの幸せを支え、一人ひとりが主役となる地域づくり
基本目標2	笑顔あふれる安全・安心な暮らしを支える地域づくり
基本目標3	将来の九戸村を支える福祉を担う人づくり
基本目標4	住民の身近な社協としての体制・仕組みづくり

基本目標1	一人ひとりの幸せを支え、一人ひとりが主役となる地域づくり
-------	------------------------------



赤ちゃんから高齢者まで、また障がいのある方も地域の一員として、その人らしく一人ひとりが主役となる地域づくりを推進していきます。

<取組1> 高齢者の生きがいつくり

村内の高齢化が進み、平均寿命が延びている中、高齢者一人ひとりが健康で趣味や特技を活かし、生涯活躍できる環境づくりが求められています。

そこで、地域での既存のサロンの活動の支援を行うとともに、新規のサロンの増設を図ります。また、ひきつづき高齢者団体の支援を行うとともに、活動のための場の提供、いつまでも生きがいをもって就労できるよう支援します。また、世代間交流事業を実施し、高齢者と子供たちのふれあいの場を作ってまいります。

社協関連事業

- ・ ボランティア活動推進事業（サロン活動支援）
- ・ 世代間交流事業
- ・ 九戸村老人クラブ連合会支援（事務局）
- ・ 九戸村シルバー人材センター事業（事務局）
- ・ 介護保険事業（デイサービス、ヘルパー）
- ・ 生きがいつくりを目的とした各種研修会の開催・・・新規

<取組2> 村内で子育てしやすい環境づくり

急激に少子化が進み、年間出生数が10人を下回る状況となっております。これを受け、村では子育て支援の施策を様々実施しており、福祉の観点からも支援が急務となっております。

働く親の支援を行うとともに、子どもの遊び場や親同士の交流の場を提供し、子育てしやすい環境づくりを行います。また、子育て支援を担うボランティアの育成、団体の支援を強化いたします。

社協関連事業

- ・ 子育てサロン事業（サロン開催、遊び場の提供）
- ・ ボランティア活動推進事業（子育てボランティア）
- ・ 学童保育事業
- ・ リユース事業（制服、運動着、カバン等の利活用）
- ・ 共同募金助成事業（母子・父子世帯等への助成）
- ・ 共同募金助成事業（出生世帯への助成金）令和5年度～
- ・ ベビーシートの貸し出し・・・新規
- ・ 小学校新入生への記念品の贈呈・・・新規



＜取組3＞障がい者への理解と支援

障害者自立支援法が施行され、地域で安全で安心して生活でき、人格と個性を尊重し支え合う共生社会を理想とした支援の実現に努めます。その一環として、地域活動支援センターを運営し、居場所づくり・社会参加できるような機会をつくってまいります。

また、気軽に相談できる窓口を開設するとともに、ヘルパーによる在宅支援を展開してまいります。

社協関連事業

- ・地域活動支援センター事業（障がいのある方の居場所づくり）
- ・障がい福祉サービス事業（ヘルパー事業）
- ・相談受付窓口の設置
- ・身体障がい者団体の支援

＜取組4＞生活困難者への支援

声をあげることができず、一人で困りごとを抱えている方、生活が困難な方（環境的、金銭的）について、コミュニティーソーシャルワーカーの訪問活動等により早期発見に努めるとともに民生委員・児童委員、地域包括支援センター、村担当課、相談支援機関と連携し、適切な支援策を講じてまいります。

社協関連事業

- ・地域訪問支援事業
- ・総合相談窓口の体制の充実
- ・助け合い金庫運営事業
- ・生活福祉資金運営事業
- ・フードバンク事業・・・新規

＜取組5＞健やかに暮らすための健康づくりへの意識啓発

健康な体に健康な心が宿り、日々健やかに過ごすことにつながります。運動教室、スポーツレクリエーションを実施し、村民の健康増進に関する意識啓発を行います。

社協関連事業

- ・水中ウォーキング事業
- ・各サロンでのレクリエーションの実施
- ・老人クラブ等各団体でのスポーツ大会の実施、参加支援
- ・介護予防デイサービス事業



基本目標 2

笑顔あふれる安全・安心な暮らしを支える地域づくり



時代の流れにより各地域における「結」という慣習が消滅しつつあります。人間関係も希薄さが増す中、住民同士のコミュニケーションを助長する機会づくりが急務となっております。

そういった中、自助・互助・共助・公助による安心・安全な地域づくりを推進します。

<取組1>各自治会等への支援と連携の推進

各自治会等への様々な情報提供、相談対応等、その地区内での困りごと（福祉的）等に対応する体制づくりをし、連携しながら住みやすい地域づくりを推進します。また、住民の支え合いを推進するため、地域でのマップづくりを支援します。

社協関連事業

- ・共同募金助成事業「福祉のまちづくり支援事業」の推進（自治会、諸団体への助成事業）
- ・住民支え合いマップ作り事業
- ・地域訪問支援事業（再掲）
- ・総合相談窓口の体制の充実（再掲）



<取組2>地域での見守り体制・地域で支え合う仕組みの構築

独居高齢者世帯・高齢者夫婦世帯が益々増加し、見守り体制を築くことが重要となってきました。自治会の協力を得ながら見守り体制を強化するとともに、コミュニティソーシャルワーカーによる訪問活動、見守り活動、当協議会の様々な福祉活動による支援を実施してまいります。

さらに、支援を必要とされる方々が、日常生活において、ちょっとした支援を受けることで、住み慣れた地域での生活を継続できるよう、地域住民、ボランティア等による配食、買い物、通院、除雪等の支援を実施します。

また、ボランティアセンターにおいて、ボランティアに関するニーズ把握・マッチング・社会資源開発などを担い、地域での支え合い活動を推進します。

しかし、そういった活動の中で、当事者と遠方にいる家族との繋がりが弱くなることが懸念される部分もあり、家族との関りにも留意が必要と考えます。

社協関連事業

- ・ヤクルト給付事業
- ・給食サービス事業
- ・ボランティアセンターの運営
- ・スノーバスターズ・除雪見守りボランティア事業
- ・おでかけサロン（独居高齢者対象）
- ・ひとり暮らし高齢者の集い
- ・買い物支援事業
- ・移送サービス事業
- ・住民支え合いマップ作り事業（再掲）
- ・地域訪問支援事業（再掲）



<取組3>ネットワークづくりの推進

地域に密着した福祉活動を展開するにあたり、各自治会、各関係機関とのネットワークづくりが急務となっております。当協議会では、そのネットワークの一翼を担うべくコミュニティーソーシャルワーカーによる訪問活動、地域でのサロン活動等により地域の課題を掌握し、行政や各専門機関に繋ぎ、早急な課題解決に努めてまいります。

又、現在の地域でのサロン活動の支援を継続するとともに、地域での新規サロンの立ち上げを推進します。

社協関連事業

- ・地域ごとふれあいサロン事業の推進
- ・地域ケア会議等各関係機関との連携強化
- ・村内福祉事業所との連携強化
- ・住民支え合いマップ作り事業（再掲）
- ・地域訪問支援事業（再掲）

＜取組4＞認知症の理解促進と支援体制の整備

国は令和6年1月1日「認知症基本法」を施行し、認知症の方が地域で安心して暮らせるための国や自治体の取り組みを定めました。厚生労働省によると、国内の認知症の方は年々増加しており、団塊の世代がすべて75歳以上となる令和6年には、高齢者のおよそ5人に1人が認知症になると予測されます。

令和5年12月時点で高齢化率45.7%の九戸村では、まさに目の前の課題であり、認知症の方が尊厳を保持しつつ希望をもって暮らすことができるよう共生社会の実現に向けた取り組みが重要となってきております。

認知症に対する正しい理解と適切な対応について、住民へ普及啓発するため小中学生の体験講座を開催するとともに、地区住民の見守り体制の構築を推進してまいります。

また、認知症状のある方の早期発見に努力するとともに各関係機関との連携し、各サービスに繋げることにより症状の進行を抑制し、希望をもった暮らしができるようサポートしてまいります。

社協関連事業

- ・キャップハンディ講座
- ・住民支え合いマップ作り事業（再掲）
- ・地域訪問支援事業（再掲）
- ・介護保険事業（居宅介護支援、通所介護、訪問介護）

＜取組5＞災害に備えた環境づくり

地球温暖化等により、近年大規模自然災害（地震、豪雨、台風等）が多発しております。住民一人ひとりが防災の意識を高め、非常時にも互いに助け合える関係づくりを推進してまいります。

令和元年より広域地区社協連絡協議会内市町村社協災害時相互支援協定を締結し、年1回の災害ボランティアセンターの設置訓練、研修等を実施しているところですが、今後災害時の村との連携を強化してまいります。

社協関連事業

- ・災害ボランティアセンターの設置・運営に関する村との協定の締結・・・新規
- ・災害ボランティアセンターの設置
- ・広域地区社協連絡協議会内市町村社協災害ボランティアセンター設置訓練
- ・災害ボランティア講習会の開催
- ・住民支え合いマップ作り事業（再掲）

基本目標3 将来の九戸村を支える福祉を担う人づくり



<取組1>福祉教育の充実

子供の頃から福祉に触れる機会を多く持つことで、思いやりの心を育み、学び合い学習することを目的として、各学校への出前講座（キャップハンディ講座）を実施し、次世代のボランティアの育成を推進します。

また、中間世代のボランティア育成のため、講習会等を開催し福祉の担い手づくりを推進し、加えて啓発活動を実施します。

社協関連事業

- ・ボランティアセンターの運営
- ・キャップハンディ講座（再掲）
- ・福祉協力校助成事業
- ・社協事業内での体験ボランティアの受入
- ・福祉バザーガレージセール
- ・災害ボランティア講習会（再掲）
- ・ボランティア育成講習会・・・新規



<取組2>福祉に関わる専門的人材の確保と職員の資質向上

次の時代を担う福祉分野での人手不足は深刻となっております。有資格者のUターン、Iターンの受け入れを進めるため、各学校への情報提供、SNSなどを活用し情報を発信していきます。また、当協議会職員の資質向上、専門的知識の向上のため積極的に研修会等への参加を進めてまいります。

社協関連事業

- ・ホームページでの情報提供
- ・SNSの活用・・・新規
- ・各関連事業研修会への参加
- ・中高生、大学生等の職場体験の受入



基本目標 4 住民の「身近な社協」としての体制・仕組みづくり



「身近な社協」を目指し、情報の発信に努め住民一人ひとりが必要としている情報を気軽に普段の生活の中で得ることができ、加えて福祉サービスを利用しやすい環境・仕組みづくりを推進してまいります。現在の住民への情報提供方法に加えて、特に若い世代についても情報発信を強化します。

また、総合相談事業においては、福祉サービス、あらゆる困りごとなどに対応できる体制を整え、行政、専門機関へ繋ぐなど解決策を講じてまいります。

<取組1> 知りたい情報を得る仕組みづくり

必要な人に必要な情報が届くように、効果的な情報提供の充実を図ります。

- 社協関連事業
- ・ 広報活動：社協だより発行（年4回）
 - ・ 声の広報（目の不自由な方対象）
 - ・ 地域訪問支援事業（再掲）
 - ・ ホームページの活用（再掲）
 - ・ SNS の活用（再掲）



<取組2> 相談支援体制の強化

少子高齢化、人口減少、社会情勢の影響を受けて、住民が抱える福祉的な心配ごとや困りごとは多様化・複雑化していることから、相談窓口をより総合的・包括的に一層強化してまいります。

また、あらゆる困りごとの相談に適切に対応できるよう、研修会や情報共有会議を通じて、各関係機関との連携を構築します。

- 社協関連事業
- ・ 相談専用窓口電話の設置
 - ・ 心配ごと相談所の設置（弁護士対応）
 - ・ 各関係機関との研修会・情報共有会議への対応

資 料

九戸村地域福祉活動計画策定に関する

アンケート調査結果

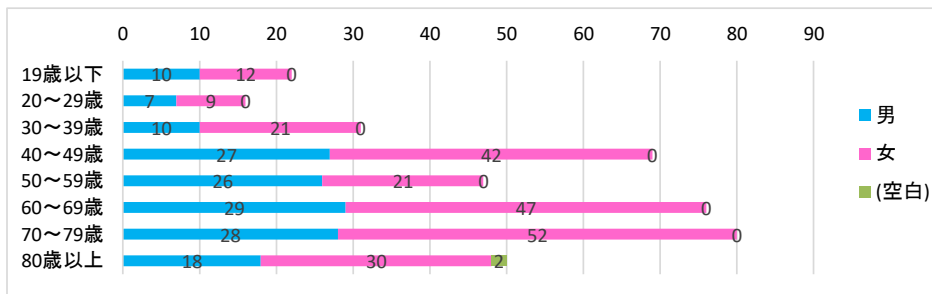
九戸村地域福祉活動計画策定に関するアンケート調査結果

九戸村社会福祉協議会では、皆様からいただいた貴重なご意見をもとに、平成31年に第1期九戸村地域福祉活動計画を策定し事業を進めてまいりました。そして今回、第2期地域福祉活動計画策定に向け、村民各年代、各地域、様々な世帯構成の方々にアンケートをお願いし、92.9%の方にご回答いただきました。この結果は、第1期の評価とも考え、第2期計画の策定の基礎資料といたします。

アンケートをお願いした方 421人
 回答数 391人

問1 性別

	男	女	(空白)	総計
19歳以下	10	12		22
20～29歳	7	9		16
30～39歳	10	21		31
40～49歳	27	42		69
50～59歳	26	21		47
60～69歳	29	47		76
70～79歳	28	52		80
80歳以上	18	30	2	50
総計	155	234	2	391

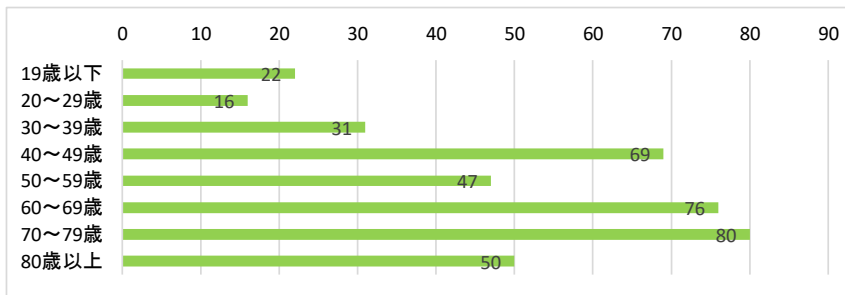


アンケートに答えていただいた方々の男女比率(総人口比率)は、男性2.9%、女性4.4%となり、総人口の7.4%にあたる総数となりました。また今回は、これからの九戸村を背負って立つ若い方々、特に19歳以下の方からたくさんの回答をいただくことができました。

22

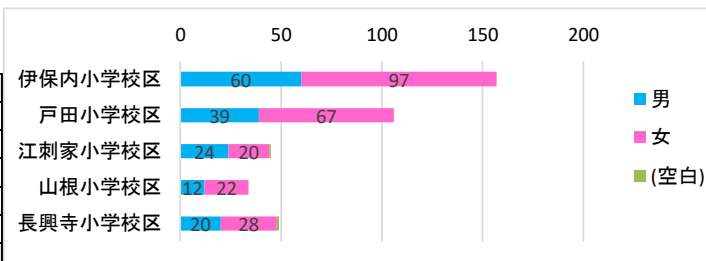
問2 年齢

	人数
19歳以下	22
20～29歳	16
30～39歳	31
40～49歳	69
50～59歳	47
60～69歳	76
70～79歳	80
80歳以上	50
総計	391



問3 小学校区

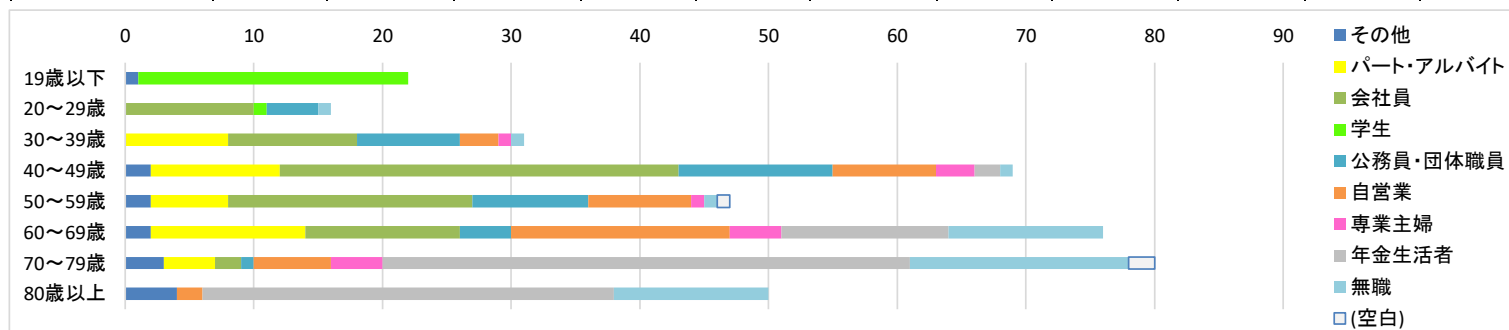
	男	女	空白	人数
伊保内小学校区	60	97		157
戸田小学校区	39	67		106
江刺家小学校区	24	20	1	45
山根小学校区	12	22		34
長興寺小学校区	20	28	1	49
総計	155	234	2	391



村内各小学校区人口比率に偏りがないう、各地区平均5.6%の方からご回答いただきました。

問4 職業

	その他	パート・アルバイト	会社員	学生	公務員・団体職員	自営業	専業主婦	年金生活者	無職	(空白)	総計
19歳以下	1			21							22
20～29歳			10	1	4				1		16
30～39歳		8	10		8	3	1		1		31
40～49歳	2	10	31		12	8	3	2	1		69
50～59歳	2	6	19		9	8	1		1	1	47
60～69歳	2	12	12		4	17	4	13	12		76
70～79歳	3	4	2		1	6	4	41	17	2	80
80歳以上	4					2		32	12		50
総計	14	40	84	22	38	44	13	88	45	3	391
比率(%)	3.6	10.2	21.5	5.6	9.7	11.3	3.3	22.5	11.5	0.8	100.0

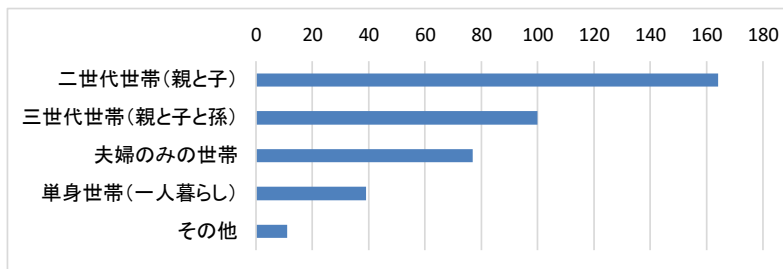


その他
 農業
 留守番
 自営業手伝い
 不明

学生、年金生活者を含む他業種の方からご回答いただきました。
 第2期は若い方の声をより多くいただきたいと考え、伊保内高校の皆様にもご協力いただきました。

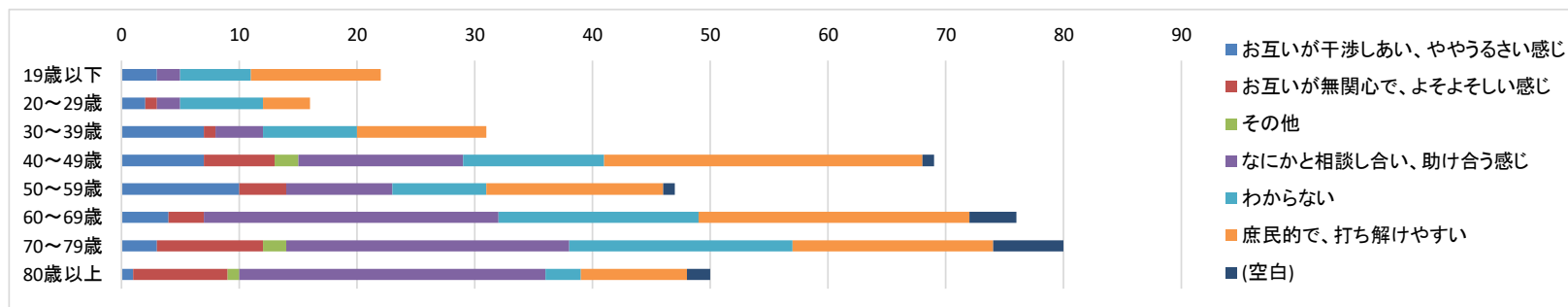
問5 家族構成

	人数	比率(%)
二世世代世帯(親と子)	164	41.9
三世世代世帯(親と子と孫)	100	25.6
夫婦のみの世帯	77	19.7
単身世帯(一人暮らし)	39	10.0
その他	11	2.8
総計	391	100



問6 今住んでいる地域について

	お互いが干渉しあい、ややうるさい感じ	お互いが無関心で、よそよそしい感じ	その他	なにかと相談し合い、助け合う感じ	わからない	庶民的で、打ち解けやすい	(空白)	総計
19歳以下	3			2	6	11		22
20～29歳	2	1		2	7	4		16
30～39歳	7	1		4	8	11		31
40～49歳	7	6	2	14	12	27	1	69
50～59歳	10	4		9	8	15	1	47
60～69歳	4	3		25	17	23	4	76
70～79歳	3	9	2	24	19	17	6	80
80歳以上	1	8	1	26	3	9	2	50
総計	37	32	5	106	80	117	14	391
比率(%)	9.4	8.2	1.3	27.1	20.5	29.9	3.6	100.0



その他

特に感じていることは無い

人が少ないから他人の事を気にしすぎ

コロナで会合無くなり地域の状況がわからない

人がいなくなって(亡くなったりして)つきあいがなくなった。

役員等決める時、人に押し付けるが自分がその立場になると逃げる。ボランティア活動時、ほかの人が動いても他の人と話したり立っ

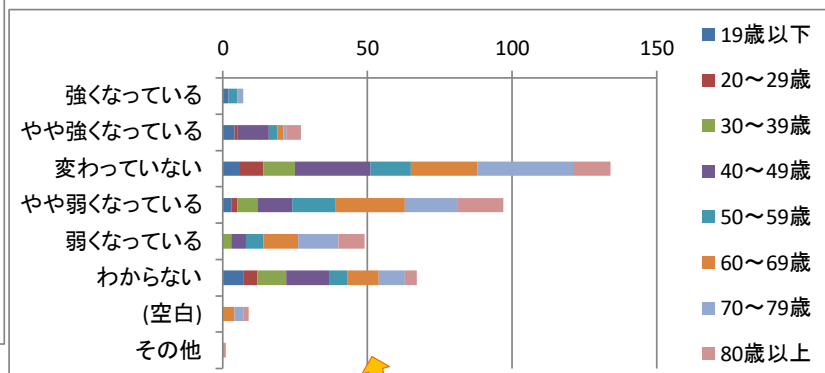
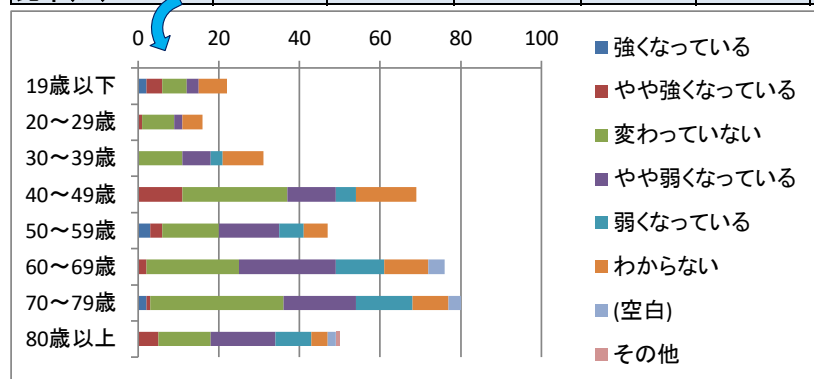
「相談し合い、助け合う」「打ち解けやすい」と答えた方が57%で半数以上を占めていますが、第1期のアンケート結果より10%下がっております。また、「干渉し合いうるさい」「よそよそしい」と感じている方が17.7%と第1期より3.8%増えている状況です。

問7 地域のつながり

	強くなっている	やや強くなっている	変わっていない	やや弱くなっている	弱くなっている	わからない	(空白)	その他	総計
19歳以下	2	4	6	3		7			22
20～29歳		1	8	2		5			16
30～39歳			11	7	3	10			31
40～49歳		11	26	12	5	15			69
50～59歳	3	3	14	15	6	6			47
60～69歳		2	23	24	12	11	4		76
70～79歳	2	1	33	18	14	9	3		80
80歳以上		5	13	16	9	4	2	1	50
総計	7	27	134	97	49	67	9	1	391
比率(%)	1.8	6.9	34.3	24.8	12.5	17.1	2.3	0.3	100

地域のつながりについては、「強くなっている」「やや強くなっている」が合わせて8.7%で第1期より6.5%減少し、「弱くなっている」「やや弱くなっている」は37.3%で第1期より2.5%増加しています。「弱くなっている」と感じているのは上の年代の方が多いことから、自分たちの経験から、地域のつながり、形が変わってきているのをより強く感じていると見受けられました。

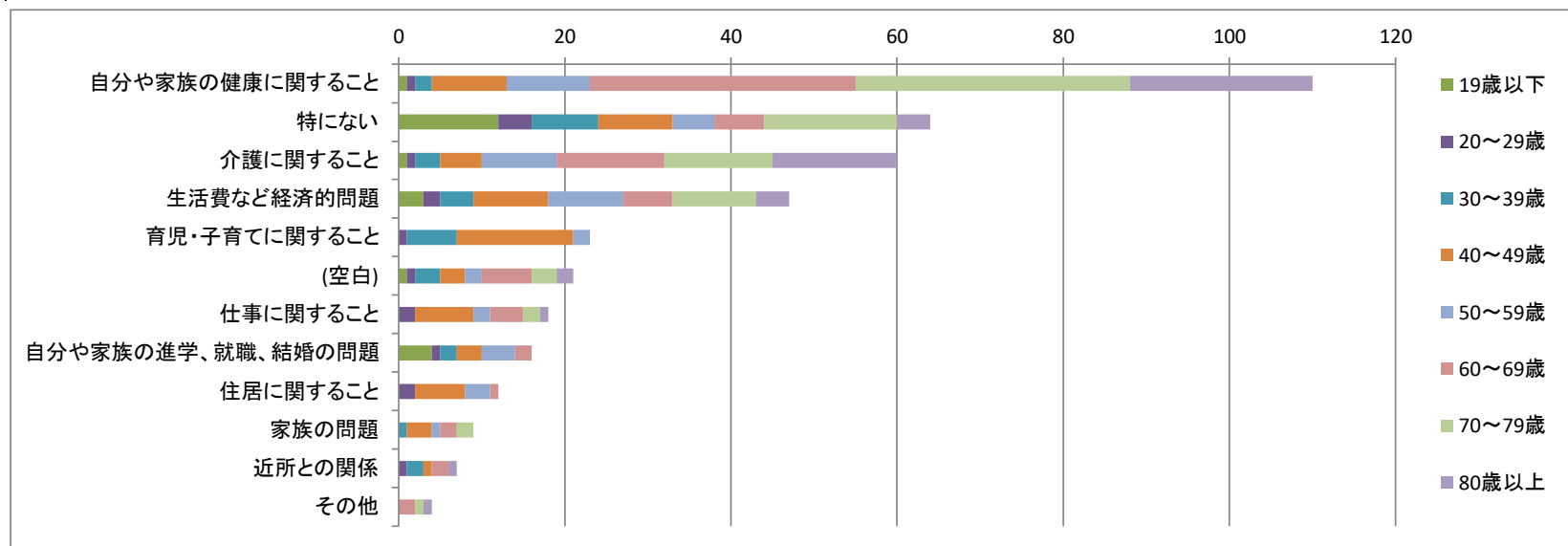
25



	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	総計	比率(%)
強くなっている	2				3		2		7	1.8
やや強くなっている	4	1		11	3	2	1	5	27	6.9
変わっていない	6	8	11	26	14	23	33	13	134	34.3
やや弱くなっている	3	2	7	12	15	24	18	16	97	24.8
弱くなっている			3	5	6	12	14	9	49	12.5
わからない	7	5	10	15	6	11	9	4	67	17.1
(空白)						4	3	2	9	2.3
その他								1	1	0.3
総計	22	16	31	69	47	76	80	50	391	100.0

問8 悩みや不安

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	総計	比率(%)
自分や家族の健康に関すること	1	1	2	9	10	32	33	22	110	28.1
特にない	12	4	8	9	5	6	16	4	64	16.4
介護に関すること	1	1	3	5	9	13	13	15	60	15.3
生活費など経済的問題	3	2	4	9	9	6	10	4	47	12.0
育児・子育てに関すること		1	6	14	2				23	5.9
(空白)	1	1	3	3	2	6	3	2	21	5.4
仕事に関すること		2		7	2	4	2	1	18	4.6
自分や家族の進学、就職、結婚の問題	4	1	2	3	4	2			16	4.1
住居に関すること		2		6	3	1			12	3.1
家族の問題			1	3	1	2	2		9	2.3
近所との関係		1	2	1		2		1	7	1.8
その他						2	1	1	4	1.0
総計	22	16	31	69	47	76	80	50	391	100.0



26

その他

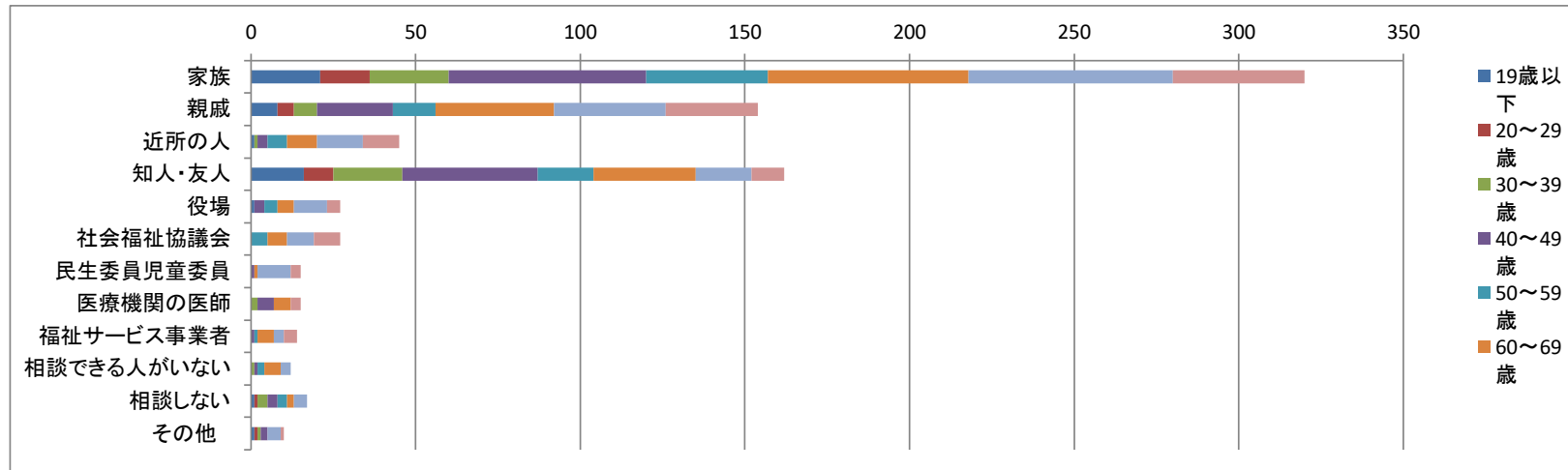
運転できなくなった時のこと。農家、農地あり、仕事のこと。
地域のまとまりがうすくなっていること。
全部だと思えます。
悪い事しなければ強いと思ってる。

悩みや不安については、「健康」「介護」「経済的問題」が上位を占めており、「経済的問題」については各年代で大差なく悩みや不安を感じている現状が見られました。

問9 誰に相談するのか？

(3つまで選択)

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	総計	比率(%)
家族	21	15	24	60	37	61	62	40	320	39.1
親戚	8	5	7	23	13	36	34	28	154	18.8
近所の人	1		1	3	6	9	14	11	45	5.5
知人・友人	16	9	21	41	17	31	17	10	162	19.8
役場	1			3	4	5	10	4	27	3.3
社会福祉協議会					5	6	8	8	27	3.3
民生委員児童委員				1		1	10	3	15	1.8
医療機関の医師			2	5		5		3	15	1.8
福祉サービス事業者				1	1	5	3	4	14	1.7
相談できる人がいない			1	1	2	5	3		12	1.5
相談しない	1	1	3	3	3	2	4		17	2.1
その他	1	1	1	2			4	1	10	1.2
総計	49	31	60	143	88	166	169	112	818	100.0



27

その他

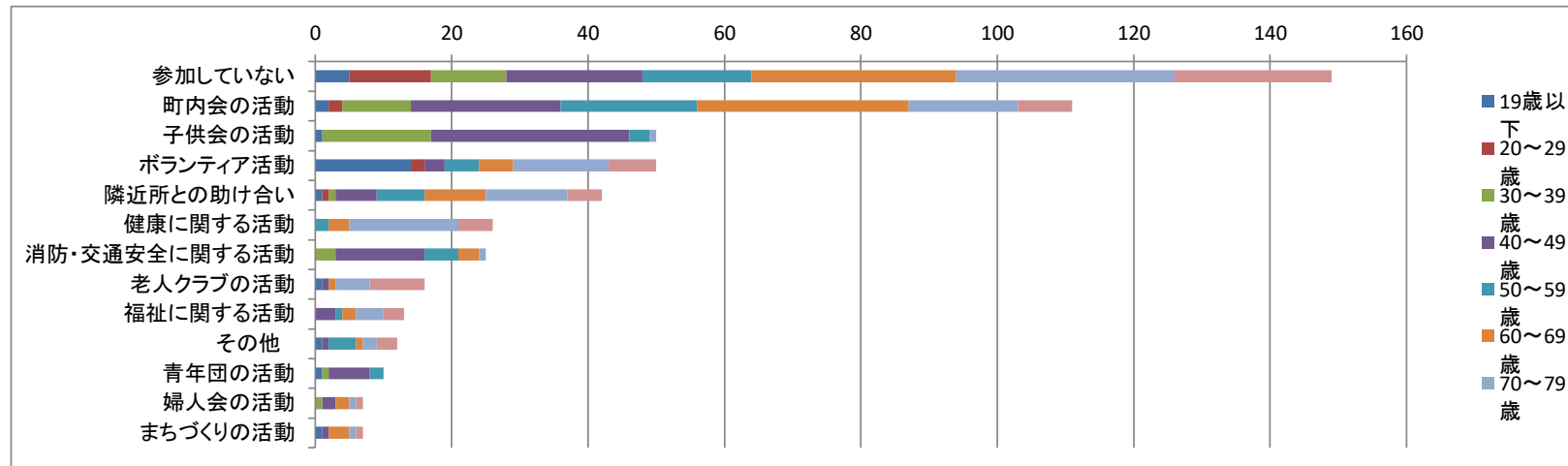
- 先生
- 子供
- 村外にいる息子
- 兄姉妹娘甥
- インターネット
- 職場の人

誰に相談するのかについて、83%の方が身近な方に相談できていますが、その一方、「相談できる人がいない」「相談しない」と回答された方が3.6%となっており、一人で抱え込んでいる方も一定数いることがわかりました。

問10 地域でどのような活動をしているか

(当てはまるもの全て選択)

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	総計	比率(%)
参加していない	5	12	11	20	16	30	32	23	149	28.7
町内会の活動	2	2	10	22	20	31	16	8	111	21.4
子供会の活動	1		16	29	3		1		50	9.7
ボランティア活動	14	2		3	5	5	14	7	50	9.7
隣近所との助け合い	1	1	1	6	7	9	12	5	42	8.1
健康に関する活動					2	3	16	5	26	5.0
消防・交通安全に関する活動			3	13	5	3	1		25	4.8
老人クラブの活動	1			1		1	5	8	16	3.1
福祉に関する活動				3	1	2	4	3	13	2.5
その他	1			1	4	1	2	3	12	2.3
青年団の活動	1		1	6	2				10	1.9
婦人会の活動			1	2		2	1	1	7	1.4
まちづくりの活動	1			1		3	1	1	7	1.4
総計	27	17	43	107	65	90	105	64	518	100.0



その他

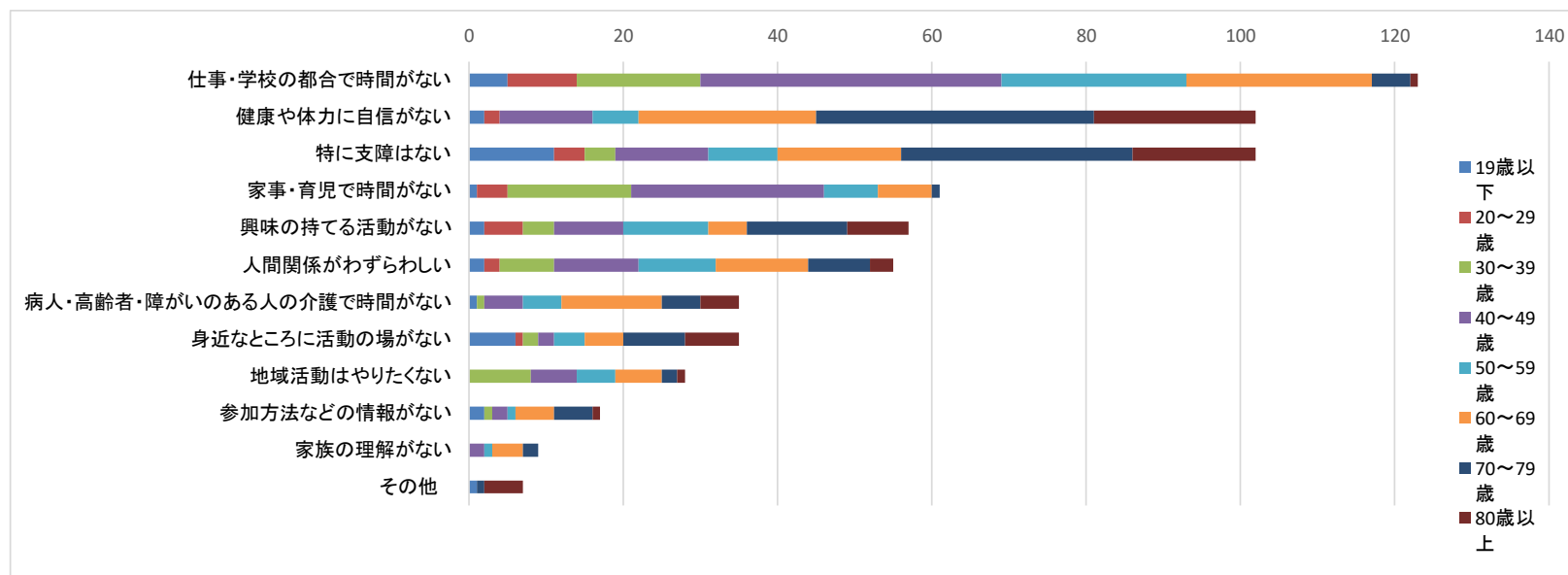
- 活動が行われない
- まつり
- スポーツ推進
- 民生委員、スクールガード
- 出来る時にするぐらい
- スポーツ少年団
- 地域活動
- 趣味の活動
- 病気療養のため活動中止

地域活動への参加について、「参加していない」と回答され方が28.8%と圧倒的に多く、第1期の結果の15%を大きく上回りました。新型コロナウイルス感染予防対策で集まる機会がなくなったことが大きな要因の一つと考えられます。

問11 地域で活動する際に、支障となること

(3つまで選択)

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	総計	比率(%)
仕事・学校の都合で時間がない	5	9	16	39	24	24	5	1	123	19.5
健康や体力に自信がない	2	2		12	6	23	36	21	102	16.2
特に支障はない	11	4	4	12	9	16	30	16	102	16.2
家事・育児で時間がない	1	4	16	25	7	7	1		61	9.7
興味の持てる活動がない	2	5	4	9	11	5	13	8	57	9.1
人間関係がわずらわしい	2	2	7	11	10	12	8	3	55	8.7
病人・高齢者・障がいのある人の介護で時間がない	1		1	5	5	13	5	5	35	5.5
身近なところに活動の場がない	6	1	2	2	4	5	8	7	35	5.5
地域活動はやりたくない			8	6	5	6	2	1	28	4.4
参加方法などの情報がない	2		1	2	1	5	5	1	17	2.7
家族の理解がない				2	1	4	2		9	1.4
その他	1						1	5	7	1.1
総計	33	27	59	125	83	120	116	68	631	100.0



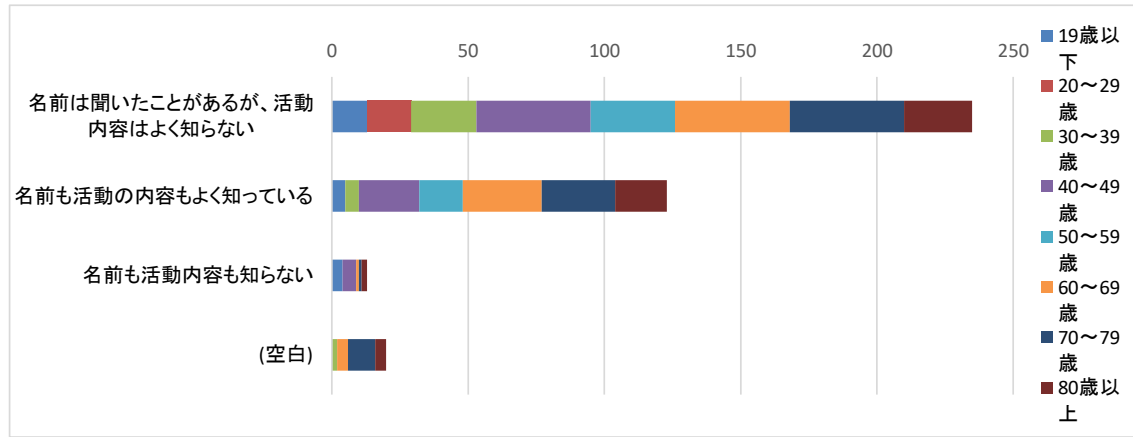
その他

消防団活動が多すぎる。必要性が薄い活動
 年齢
 コロナで集まることがなくなった。
 自分に合う活動があれば何でも皆さんのためになればやります。
 ストレスの無い生活が病気への最大の薬のため意識的に交流を断っている。

地域で活動する際に支障となることについて、「興味を持てる活動がない」「人間関係がわずらわしい」「地域活動はやりたくない」など、活動に消極的な気持ちを持たれている方が合計22.1%見られました。特に19歳以下の方は、「身近なところに活動の場がない」と回答された方が多く、若い世代が参加できる地域活動の情報発信が求められます。

問12 九戸村社会協議会を知っているか

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	総計	比率(%)
名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない	13	16	24	42	31	42	42	25	235	60.1
名前も活動の内容もよく知っている	5		5	22	16	29	27	19	123	31.5
名前も活動内容も知らない	4			5		1	1	2	13	3.3
(空白)			2			4	10	4	20	5.1
総計	22	16	31	69	47	76	80	50	391	100.0

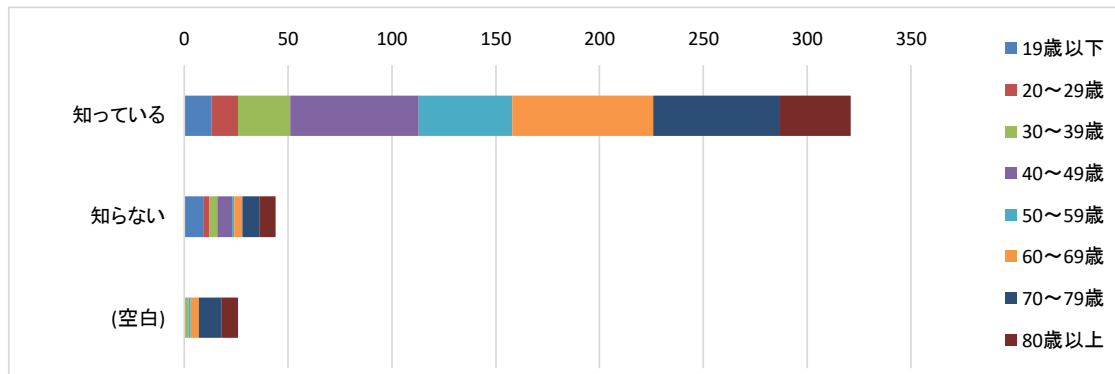


九戸村社会福祉協議会について、「名前は知っているが活動内容はよく知らない」と回答された方が60.1%、「名前も活動内容も知らない」と回答された方が3.3%となっており、かなり高い確率となっております。

30

問13 広報誌「社協だより」を知っているか

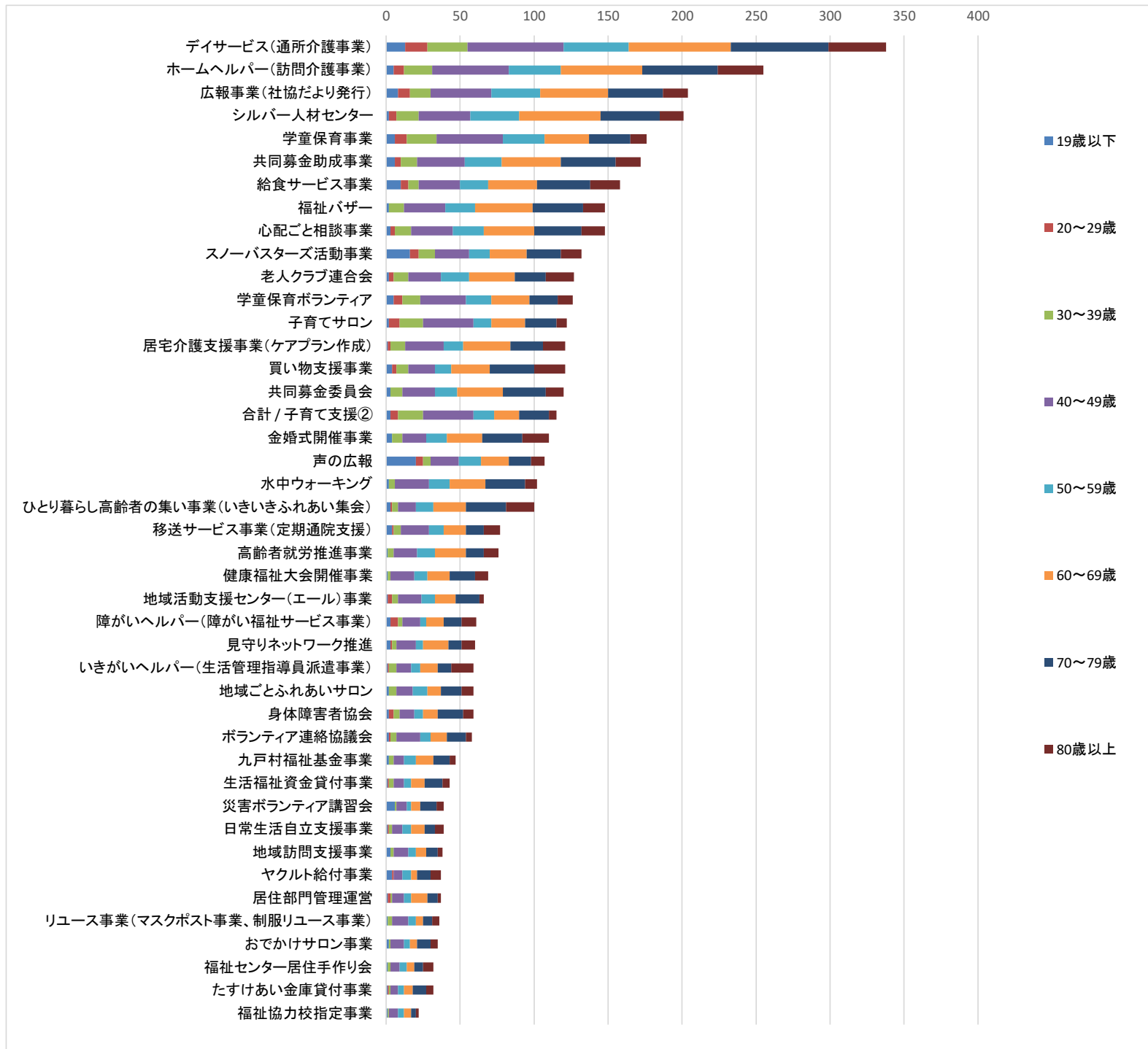
	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	総計	比率(%)
知っている	13	13	25	62	45	68	61	34	321	82.1
知らない	9	3	4	7	1	4	8	8	44	11.3
(空白)			2		1	4	11	8	26	6.6
総計	22	16	31	69	47	76	80	50	391	100.0



年4回全戸配布している社協だよりですが、特に19歳以下の若年層に「知らない」と回答された方が多く見られました。

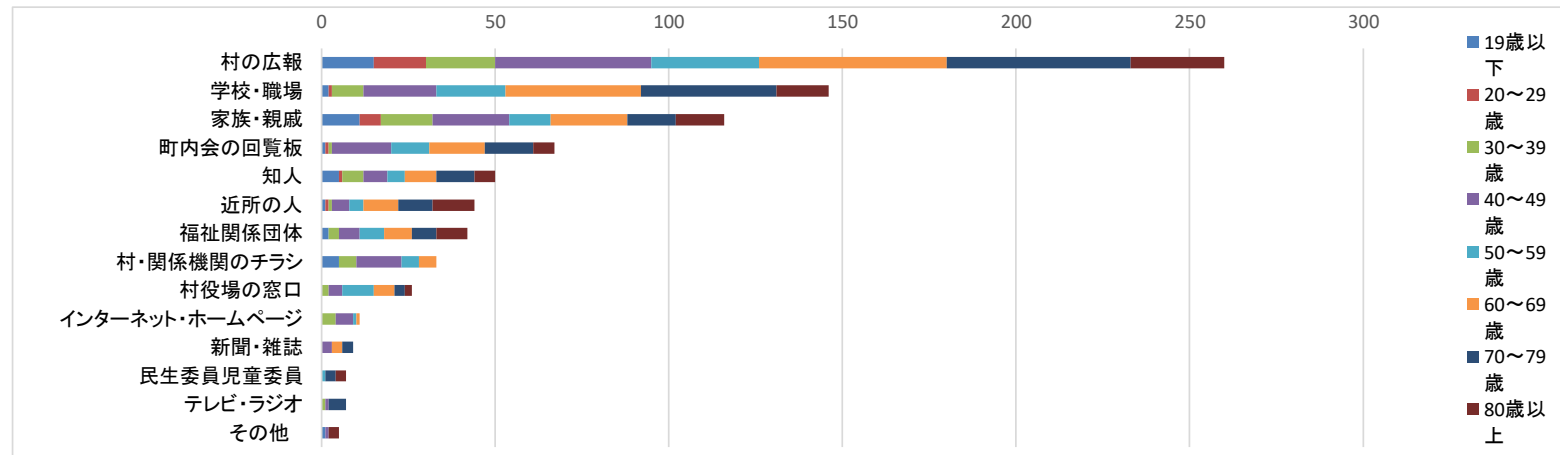
問14 九戸村社会福祉協議会の、知っている事業または活動

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	総計	比率(%)
デイサービス(通所介護事業)	13	15	27	65	44	69	66	39	338	7.9
ホームヘルパー(訪問介護事業)	5	7	19	52	35	55	51	31	255	5.9
広報事業(社協だより発行)	8	8	14	41	33	46	37	17	204	4.8
シルバー人材センター	2	5	15	35	33	55	40	16	201	4.7
学童保育事業	6	8	20	45	28	30	28	11	176	4.1
共同募金助成事業	6	4	11	32	25	40	37	17	172	4.0
給食サービス事業	10	5	7	28	19	33	36	20	158	3.7
福祉バザー	2		10	28	20	39	34	15	148	3.5
心配ごと相談事業	3	3	11	28	21	34	32	16	148	3.5
スノーバスターズ活動事業	16	6	11	23	14	25	23	14	132	3.1
老人クラブ連合会	2	3	10	22	19	31	21	19	127	3.0
学童保育ボランティア	5	6	12	31	17	26	19	10	126	2.9
子育てサロン	2	7	16	34	12	23	21	7	122	2.8
居宅介護支援事業(ケアプラン作成)	1	2	10	26	13	32	22	15	121	2.8
買い物支援事業	4	3	8	18	11	26	30	21	121	2.8
共同募金委員会	3		8	22	15	31	29	12	120	2.8
合計 / 子育て支援②	3	5	17	34	14	17	20	5	115	2.7
結婚式開催事業	4		7	16	14	24	27	18	110	2.6
声の広報	20	5	5	19	15	19	15	9	107	2.5
水中ウォーキング	2		4	23	14	24	27	8	102	2.4
ひとり暮らし高齢者の集い事業(いきいきふれあい集会)	3	1	4	12	12	22	27	19	100	2.3
移送サービス事業(定期通院支援)	4	1	5	19	10	15	12	11	77	1.8
高齢者就労推進事業	1		4	16	12	21	12	10	76	1.8
健康福祉大会開催事業	1		2	16	9	15	17	9	69	1.6
地域活動支援センター(エール)事業	1	3	4	16	9	14	16	3	66	1.5
障がいヘルパー(障がい福祉サービス事業)	3	5	3	12	4	12	12	10	61	1.4
見守りネットワーク推進	3	1	3	13	5	17	9	9	60	1.4
いきがいヘルパー(生活管理指導員派遣事業)	1	1	5	10	6	12	9	15	59	1.4
地域ごとふれあいサロン	2		5	11	10	9	14	8	59	1.4
身体障害者協会	2	3	4	10	6	10	17	7	59	1.4
ボランティア連絡協議会	2	1	4	16	7	11	13	4	58	1.4
九戸村福祉基金事業	2		3	7	8	12	11	4	47	1.1
生活福祉資金貸付事業	1	1	3	7	5	9	12	5	43	1.0
災害ボランティア講習会	6		1	7	3	6	11	5	39	0.9
日常生活自立支援事業	1	1	2	7	6	9	7	6	39	0.9
地域訪問支援事業	3		2	10	5	7	8	3	38	0.9
ヤクルト給付事業	4	1		6	6	4	9	7	37	0.9
居住部門管理運営	1	2	1	8	5	11	7	2	37	0.9
リユース事業(マスクポスト事業、制服リユース事業)	1		3	11	5	5	6	5	36	0.8
おでかけサロン事業	2		1	9	4	5	9	5	35	0.8
福祉センター居住手作り会	1		2	6	5	5	6	7	32	0.7
たすけあい金庫貸付事業	1	1	1	5	4	6	9	5	32	0.7
福祉協力校指定事業	1		1	6	4	5	3	2	22	0.5
総計	164	114	305	862	566	921	871	481	4,284	100.0



問15 福祉サービスの情報をどこから入手しているか

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	総計	比率(%)
村の広報	15	15	20	45	31	54	53	27	260	31.6
学校・職場	2	1	9	21	20	39	39	15	146	17.7
家族・親戚	11	6	15	22	12	22	14	14	116	14.1
町内会の回覧板	1	1	1	17	11	16	14	6	67	8.1
知人	5	1	6	7	5	9	11	6	50	6.1
近所の人	1	1	1	5	4	10	10	12	44	5.3
福祉関係団体	2		3	6	7	8	7	9	42	5.1
村・関係機関のチラシ	5		5	13	5	5			33	4.0
村役場の窓口			2	4	9	6	3	2	26	3.2
インターネット・ホームページ			4	5	1	1			11	1.3
新聞・雑誌				3		3	3		9	1.1
民生委員児童委員					1		3	3	7	0.9
テレビ・ラジオ			1	1			5		7	0.9
その他	1			1				3	5	0.6
総計	43	25	67	150	106	173	162	97	823	100.0

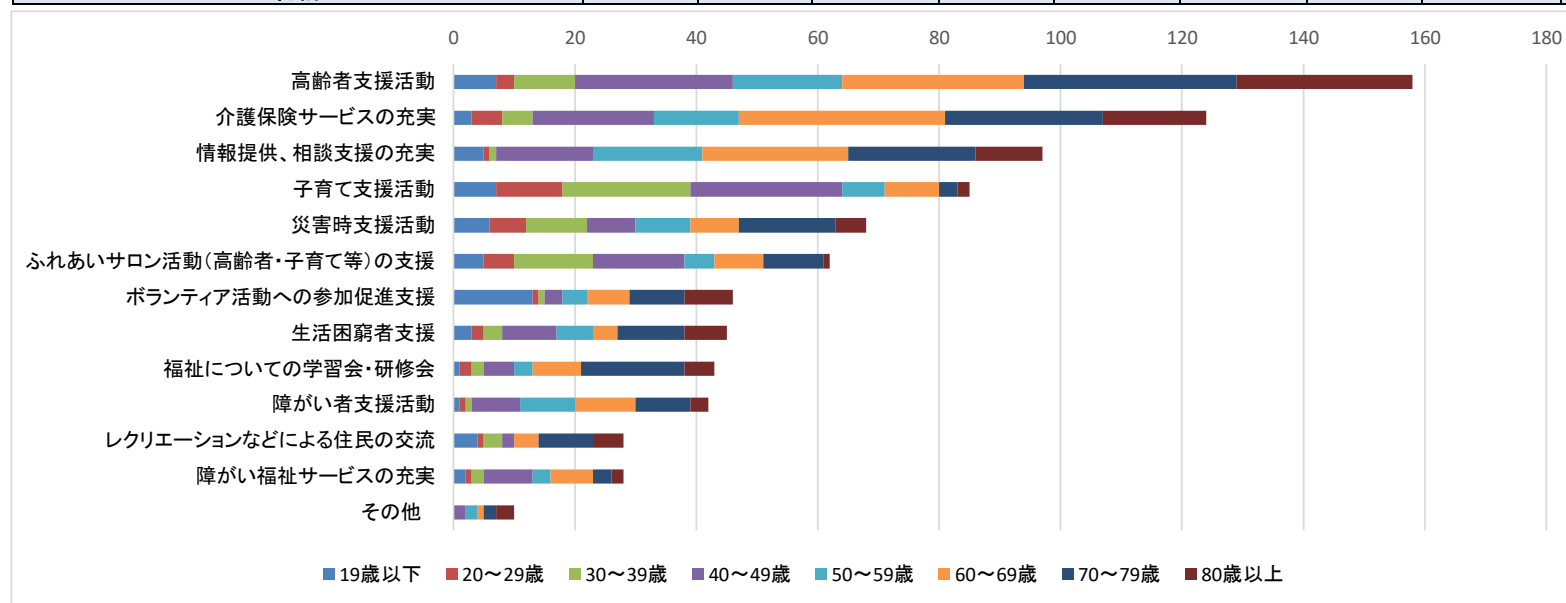


その他
 妻の神シルバー教室
 しらない
 ケアマネ
 なし
 村保健師から

社会福祉協議会の事業は非常に多く、年4回社協だよりを発行しておりますが、まだまだ周知されていない事業、活動がたくさんあることがわかりました。現在、地域訪問支援事業として社協職員が自宅を訪問し、新たに作成したパンフレットをお届けしながら社協の事業についても直接ご紹介させていただいております。

問16 九戸村社会福祉協議会が行う活動・支援として、今後充実してほしいもの

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	総計	比率(%)
高齢者支援活動	7	3	10	26	18	30	35	29	158	18.9
介護保険サービスの充実	3	5	5	20	14	34	26	17	124	14.8
情報提供、相談支援の充実	5	1	1	16	18	24	21	11	97	11.6
子育て支援活動	7	11	21	25	7	9	3	2	85	10.2
災害時支援活動	6	6	10	8	9	8	16	5	68	8.1
ふれあいサロン活動(高齢者・子育て等)の支援	5	5	13	15	5	8	10	1	62	7.4
ボランティア活動への参加促進支援	13	1	1	3	4	7	9	8	46	5.5
生活困窮者支援	3	2	3	9	6	4	11	7	45	5.4
福祉についての学習会・研修会	1	2	2	5	3	8	17	5	43	5.1
障がい者支援活動	1	1	1	8	9	10	9	3	42	5.0
レクリエーションなどによる住民の交流	4	1	3	2		4	9	5	28	3.4
障がい福祉サービスの充実	2	1	2	8	3	7	3	2	28	3.4
その他				2	2	1	2	3	10	1.2
総計	57	39	72	147	98	154	171	98	836	100.0



その他

年寄なので話しにきて下さるとありがたいです。
 認知症についての地域の理解
 選べません。全部必要でしょうから。
 人材確保
 よくわからない
 特になし
 介護保険外の高齢者サービス
 1人暮らしの見守りを
 健康問題

高齢化率45%を超える九戸村では、やはり高齢者に関する回答が多くなっております。若い世代の方々も高齢者に目を向けていることがわかります。

また、近年多発する自然災害を受け、災害時の支援活動の必要性も多くの方が感じていることがわかりました。

問 17 社会福祉協議会の活動や地域福祉のあり方などについての

自由意見

19 歳以下

- ・ おとしよりがたくさんいらっしゃるので、その人達への支援や、学生とのふれあい（交流）の機会を作ってみてほしい。
- ・ 高校生の参加が可能なボランティア活動を増やしてほしいです。
- ・ 住民に常に寄り添ってほしい。
- ・ 生活しやすい環境をつくるのが大切だと思う。

20～29 歳

- ・ 特になし
- ・ 保育に関わらず、福祉施設の職員の数がたりていないと感じる。利用者が毎日充実できるよう、現在福祉施設で働いている方々の負担を少しでも軽減するためにも職員を増員するべきだと考える。

30～39 歳

- ・ いつも楽しく参加させていただいています。
- ・ 学童クラブについて、夏休みや行事の振替休業日などの学校休校日のときの開所時間を早めてほしい。朝 8 時では村外へ通勤するには間に合わない。他の市町の児童クラブは 7 時半から開いていてなぜ九戸だけ遅いのか。
- ・ 子供達と高齢者の交流の場があればいいと思います。
- ・ 特になし

40～49 歳

- ・ なし
- ・ フードロス削減の為に、フードバンクがあればいい そう簡単ではないと思いますが。
- ・ 交流がないので、近所の人知らないし、会話もない。
- ・ 子育てサロンの床が冷たすぎます。
- ・ 知らない活動が多かった。主に高齢者のためのものだと思っていた。指定の運動着、制服はとても高いので、制服リユース事業は興味があるし、今すぐにでも利用したい。もっと気軽に利用できれば良いと思う。
- ・ 村内で福祉サービス（障がいを抱える人・軽い支援が必要な方の居場所）が利用できるようになるとありがたい。

- ・ リユース事業（制服リユース）はとても助かります。入学時は経費がかかる為。利用できる方の所得などは関係しますか？「買おうと思えば買える方」と「本当に本当に困っている方」とでは、困っている方に渡してほしいと思う。困っている（本当に）方に支援するサービスであって欲しいと感じます。
- ・ 目には見えない障がい（精神疾患、発達障がい）を抱える方への理解を深める学習会などがあつたらありがたいです。
- ・ 軽度の障がいや、境界域知能、引きこもりの方など、困っている方の居場所、安心して過ごせる場所が少ないように感じている。他市町村にあるサービスを送迎でお願いしなくても村で過ごせるよう、サービスを充実させていただきたいです。

50～59 歳

- ・ 月に1～2回でも良いので、戸田、伊保内、江刺家とかに分けて、子供達への食事会と勉強会（塾みたいに）があれば良いと思います。学校の部活とかもあるかもしれませんが、土曜日とか親さんが仕事してる場合、助かると思います。小学生～高校生まで。食事は無理なら、おやつ付きとか。もうそのような活動をしているのかもしれませんが、子供達の安全を考え、親も安心できる場所があれば良いですね。中高生が小学生の先生になったりで、頭の刺激になり、上下関係も学べて良いかもしれないです。村内で100円でカレーを提供したこともあつたと思いますが（去年）定期的に活動すると楽しいかもしれないです。
- ・ 高齢者一人世帯の把握。全活動の村民への浸透。
- ・ 色々な面で活動していただき感謝しています。
- ・ 相談支援を充実させた方が良いと思うが、秘密の守られない村では信用に欠け、誰も相談できないと思う。
- ・ 地域のゴミ集積所が遠いので、高齢者は家の前に出しても回収してくれるなどの、村のサービスの改善をお願いします。

60～69 歳

- ・ 8月から要介護2になり、週3回ホームヘルパー等を利用して大変助かっています。ただショートステイは1か月前に予約、8人しか1日に利用できないそうです。又、特老は要介護3以上の人で、30～40人予約で待っているの、2～3年待っても入れるかどうか。予約や介護職員等大変だとは思いますが、ここ10年後ぐらいで利用が減少してくると思いますが、ここ4～5年先までもう少しショートステイの利用数等増やしてほしいと思います。
- ・ 8月の大雨災害の時の様なことがあつたら、すぐに対応してくださると助かります。（他市町村のように、すぐにボランティア募集になり、体制を整えておくと安心します。
- ・ いつも、ごくろうさまです。

- ・ なし
- ・ ボランティア活動どのようなことがあるかしりたいです。
- ・ もしかすれば、もうあるのかも知れませんが身近な地域の不用品の交換又は提供ネットワークがあるといいと思います。お金のやりとりは一切無しの交換又は提供で、直接取りにいける又は協議会経由でのやりとりができるような地域又は村レベルでの小サイズネットワークです。古新聞使わない草刈刃、不要の農具、使わなくなったオープンなど、ほしいと思う人もいると思います。
- ・ 介護事業（介護サービス）が多くある事が知る事が出来ました。が、いざ利用するにあたり、どういう手順でサービスを受けれるのかがまだその時でないのもあるのかわからない事があります。広報誌にいろいろと説明して頂いてるのだと思いますが、いざ自分の親又は自分の家族、本人が介護を必要とならないと、サービスの理解がわからないところがあります。
- ・ 給食サービス事業の適用拡大をお願いしたい。
- ・ 将来、車を運転できなくなったときの、歯科眼科への通院が不安です。また、食料品日用品の買い物もできなくなると考えられますので、そういう部分の充実を希望します。（移動販売等）子供と高齢者が一緒に遊んだりする機会が増えることを希望します。例えば、学童クラブに老人クラブの人達が行って、昔遊び（メンコ、おはじき等）をして楽しむなど。そのことによって高齢者の気分が上がったり、子供達のお年寄りへの理解が深まったりすると思います。※学童クラブの部屋がもっと広くなればいいです。
- ・ 福祉活動にも、色々な面で多忙の事と思います。出来る限りの活動を進めます。
- ・ 村の75歳以上無料バスを、もっともっと利用しやすいように工夫・改善を求めます。
 <例えば> ① 各集落の中心地を運行コースに入れる。
 ② 65歳以上を無料にする。（村民皆を年齢を関係なく無料にすることが本望の希望です。）
 ③ 小回りの利くバスにした方が良くと思います。
- ・ 高齢者や障がい者の方が安心して暮らせる地域に村全体がなってほしいです。

70～79歳

- ・ 1人暮らしの人に、年は若くても体が弱ってる人がいると思うから、そういう人を面倒見てほしい。
- ・ シルバー人材センターに農作業（草取り、草刈）等依頼してもなかなか来てくれない。（悪天候時やむを得ないが）ある福祉協議会に聞いたところ、九戸村シルバー人材センター登録者人数よりも、役場等公共施設で人員確保する為、一般には手薄になる。役場、公共施設、総合公社は自立で人員確保（シルバー人材センターばかり頼らない）そうすることによって、人材センター登録者の仕事量増、一般農作業等作業出来る。
- ・ デイサービス事業が縮小されているようですが、人材の育成確保をして、今後も土日の

サービス事業をできればと思っています。部落の人たちの意見でもあります。

- ・ 近くに店等が無くなり日常の食品調達が難しくなっている方が多くなっていると思われます。移動販売を週に2回位各地域事に実施出来れば良いのでは（多分ハードルが高いのかも） Or お買い物バスの運行実施出来れば良いかもと考えています。
- ・ 高齢者支援活動についての学習会、研修会に力を入れてほしい。出来れば各地区事でいいと思います。
- ・ 今のままでいいと思います
- ・ 私は70代です。身体のこともあり福祉のことに何も協力できていません。福祉にたずさわっておられる方本当にご苦労様とおもっています。これからは、自分なりに応援していけたらと思っています。毎日おつかれさまです。
- ・ 社協会では色々と支援活動をして頂き高齢者として心強く思っています。これからもよろしく願いいたします。
- ・ 恥ずかしいですが、社会福祉協議会とは、良く知りませんでした。「社協」とはを読んで少しわかりました。認知症の高齢者を持っていた時、何をどうしたら良いか分からない時、色々手続やアドバイスして頂き有難いと思えました。本当にお礼申し上げます。九戸村社会福祉協議会って、とても素晴らしく有難い会ですね。これからも宜しく願いします。
- ・ 年金の説明
- ・ 福祉バザーは安くて欲しい物が手に入り良いと思います。手ごろな価格で助かりますし、町のふれあいや交流にも良いと感じます。買い物福祉バスも車がない人には利用しやすく、スーパーなどで欲しいものが買え役立ちます。スノーバスターズも大雪の時は、高齢者の人には必要です。雪かきは重労働ですから細かい作業も助かると思います。福祉事業は色々あり、生活している中で目につきよいと思える利点も多いです。水中ウォーキングも冬場の健康にも役立ちます。寒いのが苦手なウインタースポーツに参加できない人も室内でスポーツができよいです。デイサービスもホームヘルパーも必要な福祉活動と感じます。
- ・ 福祉活動について、まず最初に私が勉強必要だと思っています。
- ・ 毎日のお仕事ご苦労様です。さまざまな活動、ご奉仕を提供いただけて有りがたく思っています。このような活動が私達の暮らしに安心と安らぎを与えていただけて居ります。何かの時に、相談にのっていただける事が一番の願いであります。
- ・ 毎日の仕事、活動、大変ご苦労様です。陰になり日向になり、私たちの生活を支えてくださり感謝です。
- ・ 良くやってくれてると思います。お疲れ様です。

80 歳以上

- ・ いつでも誰でも障害者になる又、その人の親か祖父母になるかもしれない、今の食料環

境長生きなど我々はいつでもその覚悟をもって気を付けて生活すべきと思う。そうなった時頼りになる福祉協議会には感謝と敬意をもつものである。余りに人格を尊重すべきでないと思うことがある。精神関係の医者の本に、異性よりも血を見る事が人の首を絞める事が精射する人が野放しになっている。もしかして障害者だけで日本が甘やかしているのではないかと言う本がある。少年法で4年で世に出ていると言う。又、今は今だけ金だけ・だけの人が多い。社会福祉協議会ただ1つの光です。がんばって下さい。長興寺地区困ってます。

- ・ いつもお世話になりありがとうございます。
- ・ デイサービスに行き助かっています。
- ・ 高齢者の家を時には声をかけて訪問してください。
- ・ 大きな災害時の「水」「電気」の対策を具体的な相談支援策としてやれないか。必要と思っても集落内で自然発生的に取り組むことは無理と思う。井戸水、湧水の確保(個人、隣組、集落として)。発電対策、集落内で作れるか(発電施設)。個人のを借上げ出来るか(スマホ用など) ※水、電気をもとに、「衣・食・住」として発展するだろう。
- ・ 大変お世話になっております。
- ・ 老人はもちろん若者に福祉の心を指導してほしい。日々ご苦労様です。



策定経過

年月日	事項	主な内容
令和4年4月28日	第1回担当者会議	・第2期地域福祉活動計画策定の進め方 ・策定委員の選任について
令和4年6月29日	第2回担当者会議	・アンケートの内容と時期について
令和4年9月～	アンケート調査実施	・全職員による調査 ・地域訪問支援事業による訪問時依頼
令和5年4～5月	アンケート集計	
令和5年6月12日	第3回担当者会議	・アンケート調査結果について
令和5年6月	アンケート結果報告	・社協だよりNo.79 6月号掲載、ホームページ掲載
令和5年7月11日	第4回担当者会議	・進捗状況の確認 ・策定委員の委嘱について ・今後の進め方について
令和5年9月1日	策定委員委嘱	
令和5年9月1日	第5回担当者会議	・第1回策定委員会提出議案の確認
令和5年9月12日	第1回策定委員会	・委員長、副委員長の選任について ・地域福祉活動計画の概要について ・策定の進捗状況及び今後の進め方について
令和5年9月15日	第6回担当者会議	・アンケート評価 ・地域福祉活動計画内容について検討
令和5年11月30日	第7回担当者会議	・内容精査
令和6年2月5日	第8回担当者会議	・第2期地域福祉活動計画(案)について
令和6年2月9日	第9回担当者会議	・第2回策定委員会提出議案の確認
令和6年2月19日	第2回策定委員会	・地域福祉活動計画(案)について審議

社会福祉法人九戸村社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

(目的及び設置)

第1条 社会福祉法人九戸村社会福祉協議会（以下「本会」という。）は、九戸村地域福祉活動計画（以下「計画」という。）を策定するため、九戸村地域福祉活動計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(組 織)

第2条 この委員会は、下記の団体の代表者又は推薦された者で組織し、本会会長が委嘱する。

- (1) 九戸村社会福祉協議会
- (2) 九戸村民生児童委員協議会
- (3) 九戸村ボランティア連絡協議会
- (4) 九戸村老人クラブ連合会
- (5) 九戸村地域包括支援センター
- (6) その他学識経験者等

(委員会の任務)

第3条 委員会は、本会会長の諮問を受けて、「地域福祉活動計画」について、審議を行い、その結果を答申するものとする。

(任 期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から2年とする。

- 2 委員に欠員が生じたときは、速やかに補欠委員を委嘱するものとし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会には、委員長1名及び副委員長1名を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により定め、副委員長は、委員長が指名する。
- 3 委員長は、会務を統括し、委員会を代表する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、委員長の職務を代行する。

(会 議)

第6条 会議は、委員長が招集し、会議の議長となる。

- 2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
- 4 委員会が、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

(事務局)

第7条 委員会の事務局は、本会内に置く。

(報酬・費用弁償費)

第8条 委員の報酬及び費用弁償費は、第6条第1項で招集された委員会に出席することにより支給し、本会役職員等の報酬支給に関する規則を準用するものとする。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

1 この要綱は、平成29年3月1日から施行する。

社会福祉法人九戸村社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員

(任期：令和5年9月1日～令和7年8月31日)

役職名	氏名	所属団体	備考
委員長	山口 忠一	九戸村民生委員児童委員協議会	
副委員長	細川 育子	九戸村ボランティア連絡協議会	
委員	葉澤 博	学識経験者	
委員	高崎 覺志	九戸村社会福祉協議会	
委員	岩崎 忠蔵	九戸村老人クラブ連合会	
委員	浅水 渉	九戸村地域包括支援センター	

社会福祉法人九戸村社会福祉協議会役員

(任期：令和5年6月19日～令和6年度会計に関する定時評議員会の終結の時迄)

役職名	氏名	所属団体	備考
会長	日向 和彦	学識経験者	
副会長	山口 忠一	九戸村民生委員児童委員協議会	
副会長	高崎 覺志	九戸村老人クラブ連合会	
理事	藤川 恵子	九戸村地域婦人団体協議会	
理事	川戸 茂男	九戸村議会産業民生常任委員会	
理事	安藤 サチ子	九戸村ボランティア連絡協議会	
理事	平中 昭夫	九戸村身体障害者協会	
理事	和蛇田 達也	社会福祉法人九戸福祉会	
監事	高橋 治巳	税理士	
監事	中山 義明	九戸村監査委員	



九戸村地域福祉活動計画

令和6年3月発行

編集・発行 社会福祉法人九戸村社会福祉協議会

住 所 〒028-6502 岩手県九戸郡九戸村大字伊保内 7-39-4
(九戸村総合福祉センター内)

T E L 0195-41-1200

F A X 0195-42-2064

E-mail kunohe@kunohe-shakyo.jp

ホームページアドレス <http://www.kunohe-shakyo.jp/>

